

一般会計予算決算常任委員会
総務文教分科会記録

令和2年3月11日

【開催日】 令和2年3月11日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午前11時～午後5時29分

【出席委員】

分科会長	河野 朋子	副分科会長	伊場 勇
委員	奥 良秀	委員	笹木 慶之
委員	中岡 英二	委員	長谷川 知司
委員	山田 伸幸		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	小野 泰		
----	------	--	--

【執行部出席者】

副市長	古川 博三	消防課長	末 永和 義
消防課主幹	岩村 淳	消防課課長補佐	田中 弘保
消防課消防庶務係長	若松 宗徳	消防課消防団係長	吹金原 信夫
地域振興部長	川地 諭	地域振興部次長兼シティセールス課長	吉井 明生
シティセールス課課長補佐	原田 貴順	シティセールス課地域政策係長	中村 扶実子
シティセールス課観光振興係長	原野 浩一	シティセールス課広報係長	道元 健太郎
シティセールス課市民館長	船林 康則	文化振興課長	長井 由美子
文化振興課主幹	渡邊 俊浩	スポーツ振興課長	矢野 徹
スポーツ振興課主任主事	幸池 百子	山陽総合事務所長	堤 泰秀
地域活性化室長	吉村 匡史	市民窓口課長	川崎 信宏

【事務局出席者】

事務局次長	石田 隆	議事係長	中村 潤之介
-------	------	------	--------

【付議事項】

1 議案第11号 令和2年度山陽小野田市一般会計予算について

(総務文教分科会所管分)

河野朋子分科会長 それでは、ただいまから一般会計予算決算常任委員会総務文教分科会を開会します。よろしくお願いいたします。審査内容 1 番から始めます。①の中の 1 款議会費について、ここでは事業がありませんので、このページの中から、質疑を受けたいと思いますので、質疑のある方はお願いします。

山田伸幸委員 11 節の需用費について伺います。印刷製本費が 183 万 1,000 円となっているんですが、これは議会だよりの印刷かと思うんですが、何ページ立てを基本として計算されているんでしょうか。

石田議会事務局次長 1 回当たり 16 ページ、それを年 4 回発行するという予算立てになっております。

山田伸幸委員 例えば臨時に出すとかという場合は、この範囲内でしか出せないということなんですか。

石田議会事務局次長 原則そのようなことになります。

山田伸幸委員 近年、議会にもタブレットを導入しようとか、いろんな研修なんかもやったりしているんですが、そういった議会の今後の議会力をアップするための様々な取組については、どこの予算となるんでしょうか。

石田議会事務局次長 まず議員の視察の旅費、費用弁償ですが、例えば 9 節の旅費の費用弁償、これが委員会の視察等の旅費が入っております。それから、あと議員研修会の費用として 10 万円、予算を研修の費用としてここに入っております。これは講師謝礼ということで 8 節です。それからあとは、研修ではございませんが 18 節の備品購入費に図書購入費が

ありますので、これで議員にとって必要な書籍を購入していただくというものになります。

山田伸幸委員 議員として政務活動費が非常に気になるんですが、これは現行どおりということで、この予算ということよろしいのでしょうか。

石田議会事務局次長 そのとおりです。

奥良秀委員 議会費が前年度と比較して1, 300万円程度減額になっているんですが、この関係は、放送施設の関係がメインで減ったのかっていうのはちょっと確認で教えてください。

石田議会事務局次長 今、奥委員からお話のありました、放送設備、議会中継公民館配信等の関係ですが、その関係と、あと委員会の会議録の作成システムの関係です。

山田伸幸委員 それと非常に気になっている分として、会議録の出来上がりが以前に比べて更に遅くなってきているように感じているんですが、これについては、現在、委託されている先との協議等は進んでいるのでしょうか。

河野朋子分科会長 本会議の会議録ですか。

石田議会事務局次長 はい、協議はしております。それで、確かに、議員御指摘の部分がありますので、再度協議、そしてその辺りのなるべく早く作るということに努めたいと考えております。

長谷川知司委員 今の関連ですけど、テープ起こしするのは、本会議は委託ですけど、委員会とかで職員がされるのはまだあるんですか。

石田議会事務局次長 はい、本会議録は業者に委託しております。委員会については、事務局の職員で作成しております。

長谷川知司委員 職員には、ばくだいな量になると思うんですけど、これも委託っていうことは、将来的にはそういう方向で考えていくということではないんですかね。

石田議会事務局次長 今年度、委員会会議録をより迅速に、効率的に作るための会議録の作成システムを導入いたしまして、今それで行っております。

山田伸幸委員 委員会の会議録について、システムを導入していると言われましたが、以前試験的に導入されたときは、非常にミスが多くて使い物にならないというふうな話だったんですが、最近はそういうことはない、新しいシステムは問題ないということではよろしいのでしょうか。

石田議会事務局次長 この度入れましたシステムは、かなり変換効率が良く、当然100%には行きませんが、かなり効率的な変換がされて、事務作業も大分スピードアップしていると認識しております。

伊場勇副分科会長 今年度、約500万円かけてシステム導入されて、いろいろ議事録のことについていろいろ研究されていると思うんですが、来年度に向けて、機械器具の借上料とかもあります。また新たに新しいシステムを導入するとか、そういったお金をこの中に入っているのか、もしくは今のまま、もっと効率的にやっていくのかっていうのが1点と、あと、職員の業務の負担は今年度どうですか。それと、来年度に向けて、少しは軽減されるというふうな形ですか。

石田議会事務局次長 まず、この機器類に関しては、議場の中継システム、マイク等、それから委員会の中継等の機器等の設備の費用を来年度入れております。来年度、新たに新しい機器を導入するというような予算には

なっておりません。現在のを引き続きということです。それから、委員会の会議録につきまして先ほど申しましたように、かなり今年度導入したものが委員会の記録作成に役立っているという状況で、その面においては、かなりの事務負担の軽減が図られているのではないかと感じております。

山田伸幸委員 今、耐震改修の関係で、本会議場が使えない会議が今後生まれてくると聞いているんですが、本会議場が改めて使えるのは何月議会をめぐりとされているのでしょうか。

石田議会事務局次長 工事の担当部署から聞いておりますのは、今年度の秋ぐらいから使えるであろうと。今現在工事中ですので、そして工事の状況によって、いろいろ変動はあるかもしれませんが、おおむねそのぐらいの時期ではなかろうかと認識しております。

笹木慶之委員 先ほど政務活動費のことが出ましたが、大変自信を持って変更ありませんと言いましたが、どのような審議過程を経られたのでしょうか。政務活動費です。どのような議論をして、そのようにおっしゃったのか。

石田議会事務局次長 はい、政務活動費の額の変更ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）これは条例で1人当たりの月額が決められていますので、それに基づいて予算要求をしているということです。特にその予算要求額に事務局として、どうこう変えることもできませんので、その条例に基づいて額を要求しているということです。

笹木慶之委員 あえて伺いますが、本市の政務活動費、いろんな行政視察もあって、比較をいろいろ、事務局も見ておられると思いますが、どのようにお考えでしょうか。ほかに聞くところがないからお尋ねします。

石田議会事務局次長 はい、他市と比べると、本市は低い額になっているという認識はしております。ちょっとそれ以上、私のほうから申し上げられません。

笹木慶之委員 それはそれと分かりました。ということで、一応ね、問題提起だけしておきたいと思います。

山田伸幸委員 この問題は事務局にお任せするのではなくって、議会自身です。ね、やはり自分たちの活動を振り返ってやるべきだと思いますので、是非議会自ら、特に議会運営委員会を中心に、この辺の見直しが私も是非必要だと思います。できれば、議員報酬以上にこの部分を手厚くすべきだと私は考えておりますので、これは、私たち議会の責任ではと考えます。

河野朋子分科会長 意見ということによろしいですか。質疑はもうよろしいですか。議会については。議会費のところは終わりました、9款の消防費は、事業がありますので事業の説明を先にさせていただきたいと思います。

末永消防課長 それでは、審査事業⁵番、埴生分団庫整備事業について御説明します。資料については、19ページから22ページとなります。事業事業名は、埴生分団庫整備事業です。事業概要としましては、埴生分団庫の老朽化により、新たに埴生分団庫を建設するものです。現在の埴生部分団庫は、埴生支所に併設して建設されており、令和2年度に埴生支所・公民館が解体されるに当たって、解体後に現在と同敷地内に埴生分団庫を建設するための設計委託をするものです。また、埴生分団庫の建設は、令和3年度に建設工事を行うものです。続きまして、資料21、22ページを御覧ください。ページの中央付近に黒く塗られた長方形の部分がありますが、建て替えの位置は、現在の埴生支所・公民館敷地の北西の位置、現在、埴生分団庫があります現行とほぼ同じ位置を考えております。以上です。

河野朋子分科会長 事業について説明が終わりましたので、質疑を受けたいと思います。

山田伸幸委員 建設場所のことなんですが、ここはもし仮に増水等があったとき、海からの高波や、あるいは山からの増水があったときに、川のすぐそばだと見ているんですが、影響は大丈夫なんでしょうか。

末永消防課長 ハザードマップ等によりますと、高潮になりますが、これについては区域の中には入っておりません。

山田伸幸委員 いや、1999年ですか、あのときの高潮のときも、この場所は問題なかったということによろしいですか。

末永消防課長 私が聞いております範囲では、そちらには影響はなかったと聞いております。

長谷川知司委員 用地借上料というのはどういうことなんでしょうか。

末永消防課長 はい、令和2年度に埴生支所と公民館が解体されるに当たりまして、これと併設しておりますのが、埴生分団庫となります。支所と公民館を解体するに当たりまして、埴生分団庫も解体が行われます。解体が行われた後の建設期間までの間に、埴生分団の消防車両、そして埴生分団員さんの待機場所が必要になってまいりますので、そちらの埴生分団の消防車を止めておく場所につきまして、借上げを行うものです。

長谷川知司委員 埴生出張所がありますよね。また青年の家がそこにあるんですけど、そこは全然駄目ということなんでしょうか。

末永消防課長 埴生出張所も当初検討しましたが、現在3台の車両が入ってお

りまして、ここに止めるのは難しいという判断をしております。また青年の家につきましては、屋根部分は確かにありますが、消防車両が全てのを車庫の中に入れていたという状態でないので、外に放置しておくのはいかがなものかというところで、現段階で考えておりますのはシャッター付きのところを検討を進めているところです。

奥良秀委員 ちなみに借上げ場所の予定地は、今どちらになっているでしょうか。

末永消防課長 はい、今交渉しているところで、はっきりしたところは申し上げられないんですが、現行の場所に近いところで話を進めさせていただいております。

奥良秀委員 先ほど山田委員からありましたハザードマップの中では、大丈夫なところと考えるとよろしいでしょうか。

末永消防課長 次年度借上げする場所につきましても、浸水の危険性がない場所と考えております。

笹木慶之委員 令和4年に擁壁工事とあるんですが、ちょっとこれを教えてください。

末永消防課長 こちらの擁壁工事につきましては、現行の埴生支所、埴生公民館の敷地の北側になりますが、一般の方が通られる通路に面した部分です。こちらにつきましては、ブロック積みの擁壁に現在なっておりますので、これについて将来的に崩れる可能性があるという観点から、そちらについて改修を念頭に、教育委員会と事業を進めていこうと考えております。

笹木慶之委員 そうしますと、この図面で見ますと、ここの部分ですね、これ

全域ですね。（「はい」と呼ぶ者あり）はい、分かりました。

伊場勇副分科会長 新しく建てるに当たって、今の埴生分団の方の要望や、新しくするのであれば機能強化というところは今どうお考えでしょうか。

末永消防課長 埴生分団の団員数等を考慮いたしまして、厚狭分団とほぼほぼ同数の団員さんがおられますので、厚狭分団と同規模の埴生分団庫と考えております。

伊場勇副分科会長 詰所っていうところも一緒に建てるっていうふうに書いていますけど、今現状、余り詰所といったような感じのところがちやんとないような雰囲気には僕は思っているんですが、新しく建屋を造って、二つの部屋を造るというような形なんですかね。

末永消防課長 車庫部分と、もう一つの部屋という形で2部屋という考え方になります。

山田伸幸委員 具体的に車庫部分がどの程度の広さ、詰所がどの程度の広さというふうに考えておられるでしょうか。

末永消防課長 車庫部分につきましては、おおむね34平米、詰所につきましても、おおむね同じ程度の広さと考えております。合計しましたら、70平米を若干下回るかと考えておりますが、まだ設計が次年度になりますので、多少の誤差が出ようかと考えております。

長谷川知司委員 今設計の話が出たんですが、設計側の工事費について大体20%ということで結構、設計委託料がいいなという見方をしておりますが、一番最近では厚狭北分団庫をたしか造られたんですよね。ああいうパターンでいけば、もうちょっと設計委託料も参考事例があれば安くなると思いますので、そういうことを活用して、できるだけいいものを造

らにやいけんですけど、設計委託料も安くなるんじゃないかなと思いますので、参考までに申しました。

河野朋子分科会長 これは意見ということで受け止めてください。

山田伸幸委員 消防団のことがよくわからないので教えていただきたいんですが、出張所との連携といいますか、その辺は具体的にどのようにされるんでしょうか。例えば、現場に移動したり、あるいは詰所に人がおられるときに、どういう連絡体制となるんでしょうか。

末永消防課長 消防団との連絡体制につきましては、各車両に消防無線というものを載せております。これにつきましては、常備消防と非常備消防の連絡が取れるということと、あとは、これは個人的な形にもなりますが、消防団の方は携帯電話等を現在はお持ちですので、携帯電話を使って出張所と連絡を取られる場合もあります。

河野朋子分科会長 この事業についてよろしいですか。はい、では事業については終わりましたので、消防費の該当ページについて質疑があれば受けたいと思います。246ページから249ページまでの間で質疑を受けます。

山田伸幸委員 247ページの常備消防費のうちの19節負担金で消防組合費の分担金が9億2,885万2,000円計上されているんですが、これは今年度どういった事業計画があつてこういう分担金になっているんでしょうか。

末永消防課長 事業計画につきましては、山陽小野田市に関するものについてでありますと、小野田消防署のはしご車と山陽消防署になりますが資機材搬送車、あとは埴生のタンク車ということになります。その他につきましては人件費等の差額になります。

河野朋子分科会長 はい、ほかにありますか。よろしいですか。このページについて、それでは①番の審査を終えたいと思います。続きまして、②番に入りますので、職員入替えのため10分間休憩します。よろしくお願いいたします。

午前11時25分 休憩

午前11時35分 再開

河野朋子分科会長 それでは分科会を再開します。審査番号②の審査に入りますが、ここでは、審査事業がありますので説明を受けますが、そこに少しありますが、横並びにあります9番、12番、13番の事業は関連事業ですので、まとめて簡潔な説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 よろしく申し上げます。41ページを御覧ください。審査事業9番、シティセールス推進事業について御説明します。この事業は、43ページ以降に記載しておりますシティセールス推進事業（ロゴマーク普及啓発事業）とセットですので、こちらもあわせて御説明させていただきます。まず、一つ目の事業の概要です。市の認知度の向上を図るため、市の魅力を市内外に発信するとともに、新たな魅力の発掘に取り組むため、昨年改定したシティセールス推進指針に基づき、スマイルプランナー登録制度の運営の強化やシビックプライド醸成の機運を高めるためのアドバイザーの活用、その他シティセールス推進協議会の開催等に取り組むものです。次に指標ですが、シティセールス全般にわたる戦略づくりやその普及等の結果の表れとして、市公式ホームページ、SNSの閲覧数を活動指標に掲げ、目標値を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については、当事業の予算種別が経常であるため、点数はついておりません。42ページには、予算を

記載しておりますが、支出の内訳としては、報償費64,000円、普通旅費270,000円、消耗品費641,000円、印刷製本費149,000円、通信運搬費84,000円、デザイン委託料220,000円の合計1,428,000円。財源としましては、物品売払収入、これはピンバッジの頒布に係る収入として60,000円、その他は一般財源を充当しております。続いて、43ページのロゴマーク普及啓発事業について御説明します。事業概要ですが、これはロゴマーク入り缶バッジの無料配布を行うものです。指標ですが、缶バッジを無料配布した個数を活動指標としており、シティセールス課の窓口で一日10個を上限に配布するという計算で目標値を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクトに該当する事業ということで37点の評価となっております。44ページには、予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、缶バッジの材料代として消耗品費105,000円。財源としましては全額一般財源を充当しております。45ページには、平成30年度の事務事業評価シートを掲載しております。これまで御説明しました2つの事業は、平成30年度はこの一つの事業でありましたので、こちらのシートで評価の状況を御説明します。平成30年度はシティセールスの立ち上げの年でありましたので、推進指針の策定、推進本部及び推進協議会の立ち上げ、スマイルプランナー登録制度の構築等に取り組み、シティセールスの浸透を図りました。この取組はまだ緒に就いたばかりであり、今後とも一層の定着を図っていく必要があることから、目標の達成度は「B」、今後の方向性はコスト投入を現状維持にとどめつつ、成果の拡充を図るとしてしております。46ページには、費目ごとの内訳を記載しておりますので御確認ください。次に、59ページを御覧ください。審査事業 12 番、シティセールスPR強化事業について御説明します。まず、事業の概要です。当事業は、本市の新たなCI戦略を進めるために平成30年度から開始したもので、PRロゴマークの策定や、くぐり岩と花の海をモチーフにした新たなポスターを作成して、本市の玄関口である厚狭駅新幹線口に掲示すること等を行っているものであり、来年度は、厚狭駅に加え、小倉駅の

デジタルサイネージも活用しようとするものです。次に指標ですが、PR事業の成果を図るものとして、市公式ホームページ、SNSの閲覧数を活動指標に掲げ、目標値を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業等ということで37点の評価となっております。60ページには、予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、広告料983,000円。財源としましては、地方創生推進交付金491,000円、一般財源492,000円を充当しております。61ページには、平成30年度の事務事業評価シートを掲載しております。活動指標の目標値には届いておりませんので、目標達成度は「B」としてありますが、市のイメージ発信のため、ロゴマークは活用しやすいツールとして定着しつつあり、くぐり岩等のポスターも本市のイメージ定着に貢献しているものと評価しております。ただし、この事業だけで認知度の向上を図ることは困難であることから、シティセールスに関する他の事業とも連動させながら効果を高めていくこととし、今後の方向性は、コスト投入を現状維持にとどめつつ、成果の拡充を図るとしてあります。なお、先ほど申しましたとおり、小倉駅のデジタルサイネージの活用部分は新規であります。地方創生推進交付金を活用することにより、コスト投入量に係る一般財源の増加分を圧縮しております。62ページには、費目ごとの内訳を記載しておりますので御確認ください。次に、63ページを御覧ください。審査事業 13 番、わがまちの魅力発信事業について御説明します。当事業は、事務事業名としては初めてお目に掛けるものと思いますが、内容としてはこれまで他の事業の一部として実施しておりましたものを抜き出したものですので継続事業という扱いにさせていただいております。まず、事業の概要です。プロスポーツの観戦という多くの人が集まる機会を活用して市のPR事業を行おうとするもので、広島のマツダスタジアムでのわがまち魅力発信隊への参加や、レノファ山口のホーム試合でのPRブースの出展等からなります。マツダスタジアムでのPR事業は、今年度はふるさと納税のPR事業の一環として実施し、レノファ山口のホームゲームでのPR事業は以前からシティセールス推進事業等の一環として実施してお

りましたが、スポーツファン向けというターゲットでの絞り込みをかけたPR事業という形に構成しなおしております。次に指標ですが、事業の内容を踏まえて、PRイベントの実施回数やブースへの来場者数を掲げ、それぞれ目標値を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業等ということで35点の評価となっております。64ページには予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、普通旅費87,000円、消耗品費260,000円、通行料10,000円、イベント出展負担金368,000円。財源としては、全額ふるさと支援基金繰入金を充当しております。65ページには、費目ごとの内訳を記載しておりますので御確認ください。説明は以上です。

河野朋子分科会長 はい。今、3事業についての説明がありましたので、これは関連しておりますので、質疑ありますか。

山田伸幸委員 41ページのシティセールス推進事業の目標指標、活動指標又は成果指標のところ、令和1年は4月から7月になっているのは、これなぜですか。年間になっていないのは。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 こちらはですね、この事務事業調書を作成する時点で、このような様式で出すようになっておりますので、そのような形にさせていただいております。

山田伸幸委員 これ、その前の平成30年はこれは年間通した件数ということですか。SNSの閲覧数だったら、これいつだってすぐ確認できると思うんですけど、実際にまだ年度途中でありますけれど、最新のものです、どのぐらい行っているんですか。

河野朋子分科会長 現時点で分かる数字があればお願いします。

道元シティセールス課広報係長 最新のもので、今年度の4月から2月までと
いうことで紹介させていただきますが、およそリーチ数が28万件にな
ります。ホームページに関しましては、もう一度確認して、再度回答し
たいと思います。

奥良秀委員 42ページの金額のところデザイン委託料っていうのが、令和
元年度22万円、令和2年度も22万円っていうふうに挙がっているん
ですが、こちらの方は何か新しいデザインを作成される予定なんでしょ
うか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 新しいデザインを今時点で何か取
り入れようというものではなくて、あくまでも、例えば新しいものを作
ろうというときのための年間大体5万円掛ける4回分ぐらいの算定での
ものになっておりまして、随時対応していきたいというものです。

中岡英二委員 41ページの事業概要の中で、スマイルプランナー制度の運営
の強化とありますが、今現在、どれぐらいの方が登録されていますか。

中村シティセールス課地域政策係長 今日現在の登録者数ですが、団体が51
団体、個人が158人です。

伊場勇副分科会長 この9番のところスマイルプランナーを言わなきゃい
けないと思うんですけども、51団体158人ということで、強化とい
うことで、数だけ増やせばいいっていう話じゃなくて、それをどういろ
いろ連結させていくとかかいうところが問題になっていると思いますが、
令和2年度に向けて具体的な方向性とか、お互いのプランナー同士の交
流の場とかがあれば、またいろいろな効果が生まれるんじゃないかなと
思いますけども、その辺のお考えを聞かせてください。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 今御指摘のところは、今年度中か

らも課題として認識をしていたところです。単に人を増やすだけでなくというふうなところで。今年度中からも、少しずつそういう実績を出してきたところがあります。例えばレノファの交流イベントなんかはサッカー場であるときに、レノファファンの登録者の方でスマイルプランナーになっていらっしゃる方にお声掛けをして、我々と一緒にそのPRブースの運営といたしますか、例えばアンケート調査をするときのアンケート用紙を配っていただくというふうなこともやっていたりということもありました。それから、タンDEM自転車の体験試乗会、これをやったときも、スポーツ関連でまちづくりに貢献したいというスマイルプランナーの方にお手伝いをいただいて、その体験者を集める人集めの段階から、いろいろ皆さんをお知り合いの方に声を掛けていただいてということもありまして、少しずつどういうふうな形でコラボレーションできるのかというふうなことの試験的な取組というのは今年度からやってきました。これは今のところあくまでも市とスマイルプランナーさんっていう形のコラボになっています。来年度以降は、また今度、今言われたような、スマイルプランナー同士のコラボレーションというふうなものをどういうような形で実現していくのか。これは連絡といたしますか情報をどういうふうな形で共有させていくかっていうふうな仕組みづくりにも関わってくるものだと思いますけれども、その辺りはもう来年度しっかりと、年度当初からですね、考えて、少しずつですけれども、実績を上げていきたいというふうには考えております。以上です。

伊場勇副分科会長 方向性はすばらしいと思います。是非プランナー発信の事業だったりとか、イベントになると大きくなっちゃうんで、少しのごみ拾いとかでもいいので、そういうところをしっかりと受け入れる体制を行政として、しっかりと取っていただきたいなと思います。意見です。お願いします。

山田伸幸委員 以前、観光事業をやっておられる事業者から、いろいろ山陽小野田市の魅力について掘り起こしていただくというようなことをされて、

この場で私たちもその報告を受けたんですけれど、それが現在どのよう
に生かされているんでしょうか。

河野朋子分科会長 今回の質問、もう1回ちょっと。どういう趣旨ですかね。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 ちょっと確認させてください。平
成30年度に、専門の業者さんをお願いしてプロモーションの調査をや
ったものということでよろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）平成
30年度に委託をいたしまして、特に焼野海岸エリアを中心にした形で
の観光の素材の発掘と今後の展開につきまして提案を頂いたものがあり
ます。そちらにつきましては、観光の新しいプラン、こちらを作るもの
の中に数多くその中で提案されたものは反映させていただいております。
1月頃でしたか、パブリックコメントをさせていただきまして、もうす
ぐ成案になるという状況です。平成30年度に行った調査の結果を踏ま
えて、今年度観光の新しいプランを作った。その後またそのプランにの
って、様々な展開をしていくということを今考えております。

河野朋子分科会長 それ観光プロモーション事業の件になりますかね。14番の
事業ですね。そのときに。今、9、12、13番でお願いします。

笹木慶之委員 スマイルプランナー制度についてお尋ねをします。いわゆるど
のような選定基準というか、何か基準があって、制度ですから運用があ
りますよね。何かの決まりがあって行っておられると思いますが、それ
がどうなっているのか。もう一つは、スペシャルというやつがあるじゃ
ないですか。これも、どうなっているのか教えてください。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 まず、そのスマイルプランナー登
録制度ですけれども、これはシティセールスを我々がしていく中で、そ
の成果として、山陽小野田市のファンになったというふうな方、もちろ
んもともとファンの方もいらっしゃいますけれども、そういった方々が

一緒にまちづくりをやっていこうと。スマイルシティというものを作っていき、活動の内容はまちまちなんだと思いますが、一つにスマイルシティを作っていく仲間なんだというふうな思いを共有する一つの仕掛けとして、そして、先ほどもありましたがそういう思いを持った人同士が、一緒にまた新しいコラボで活動していこうというためのネットワーク、情報網というか連絡網というか、そういうふうな実利的な機能を持たせるため、そういうふうな大きな目的が二つありましてこの登録制度を作りました。登録する上での基準というのは厳密にやるものではなくて、そういう思いを重視したいものですから、登録を希望される方が、私はこういう分野で、あるいはこういう活動で市のために頑張りたいと思っていますということを登録の申請書上で明記していただければ、登録をするという形になっております。もう1点、スペシャルに関しましては、今申しましたような思いを持っていらっしゃる方の中で、特にその情報発信の分野で、その情報発信力が高い人、その能力を持っていらっしゃる方で、ある程度実績がある方を特に市長が認めた場合に、スペシャルという区分に登録するという形になります。

河野朋子分科会長 よろしいですか。今の続きですね。はい、笹木委員。

笹木慶之委員 そうしますと、いわゆる誰でもいいわけですね。早く言えば。

いわゆるスマイルプランナーは、いわゆる自己申告制度のようなものですから、申告内容に書いてあるものであれば誰でもいいということですね。まずそれが1点。2点目は、特に、情報発信力があるものということで、スペシャルの部分についてはね、市長が認めたものということですが、これは市長が皆一つ一つ決められはしませんが、あなた方のほうでされるところだと思いますが、やっぱり何か基準があると思うんですよ。何もなしに、主観論で、やっぱり客観的な何かをもって諮らないといろんな市民の方が、あれがあってなぜ私がないのというような形のものもいろいろあるかもしれません。だけど、いいことするんだから、やっぱり広くやればいいんじゃないけど、やっぱりそこにはきちっとした基準がないと、

なった方も余りおもしろくないんじゃないか。これ、特定の事を出して言うわけではありませんが、ある方が紹介されました。ある方があるところに紹介されましたが、全然今までの経歴が分からないんです。今こんな人と。それを見てね、これはどんなことしている方かなあと思った。これは今回1件だけじゃなしに前もあったんですが、ということは、選定はどうなっているかなという気がしたから尋ねているわけですから、もっと具体的なことがあると思いますが、なければいいですが、教えてください。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長　まず最初の御質問の中で誰でもなれるのかということですがけれども、基本的な要件、例えばその政治的な活動を目的にしたとか、宗教的な活動を目的にしたとか、あるいは暴力団関係とか、そういうふうな方はなれませんよというふうな一般的なルールがありますけれども、それ以外は今現在、例えば活動実績がなくても、今後私は山陽小野田市のためにこういうことやりたいという思いがあれば、一般のスマイルプランナーには登録できるというものがあります。1点目はそれです。それからスペシャルのほうですがけれども、明確な基準っていうのはないのかということとして、こちらも、今後の運用の中である程度の実績が出てくる中で積み上げていって、この辺が相場感かなというものは出てくるのかもしれませんが。この度、第1号として、西広ショータさんという方をスペシャルに登録をしていただきました。この方は、10月のハロウィンのイベントの関係で、オリジナルソングを作っていただいてというのがまずありまして、その後も、自らスマイルシティという曲を作られて、自らそれをユーチューブに乗せられて動画で発信されて、いろんな形でPRしていただいていると。本人のライブ活動で全国回られるときにも、市のPRを一生懸命していらっしゃるという実績がありましたので、感謝の思いも込めまして第1号という形で認定をさせていただきましたけれども、そういう形で実績が明確に私ども事務局としても把握できるという状況になれば、スペシャルに認定する、登録するということは今後もあろうかと思っております。

笹木慶之委員 私の認識不足でしたが、今回は第1号なんですね、今までなかったんですね。はい、分かりました。それはそれとして、これからの問題でしょうが、問題は、いいことされるんだからいいんだけど、例えばそうでないようなことが起こったときに、対処策は考えておられますか。それはいろんなことが想定されますよね。やっぱりいろんな面で、そういったときには、プランナーの取消しというのがあるんですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 登録を抹消するということがあります。

河野朋子分科会長 先ほどの数字が出ましたか。

道元シティセールス課広報係長 先ほどの御指摘のありました公式ホームページとSNSの閲覧数、今日現在で、106万6,687件です。4月1日から3月11日現在になります。

河野朋子分科会長 よろしいですか。今の数字の確認。今の数字でのことで、ちょっとそれだけ、はいどうぞ。

中岡英二委員 この数字の中にはユーチューブ等が入っているんですか。

道元シティセールス課広報係長 ユーチューブは入っておりません。

山田伸幸委員 フェイスブックをされていますけど、それはどうなっていますか。

道元シティセールス課広報係長 内訳ですが、フェイスブックに関しましてはリーチ数ということで27万8,834件。差し引きました78万7,853件がホームページということになります。

山田伸幸委員 そのホームページというのは、観光のページに来られた方の数ということでよろしいのでしょうか。

道元シティセールス課広報係長 観光のホームページということではなくて市の公式ホームページということになりますので、観光協会のホームページはカウントされておりません。

河野朋子分科会長 今回の数字の件だけでちょっと質疑があれば。それ以降は午後に回したいと思います。お昼になりましたので、ここで午前中の審査を終わらせて、午後1時から再開したいと思いますので、よろしくお願いします。

午後0時1分 休憩

午後1時 再開

河野朋子分科会長 それでは、分科会を再開します。審査番号②のところで、審査事業[9]、[12]、[13]の説明を受け、今質疑をしております。引き続き質疑を受けますので、よろしくお願いします。

伊場勇副分科会長 缶バッジのことについてです。43ページ、44ページなんですが、1日10個を継続するというので、今現在、市民の反応であったりとか、10個毎日配られているのかということと、あとその缶バッジをあんまり付けている人をそこまで普通、生活して見ないかなって思うんですよ。ただ、これを進めるに当たり、どういったことを目標にしているのかなあって。配るだけじゃなくて、そこをちょっと教えてほしいなと思います。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 今回の缶バッジの件ですけれども、

缶バッジ自体を配ってどうこうっていうことではなくてロゴマーク、この山陽小野田の新しいスマイルマークといいますか、このロゴマークを浸透させたいという思いで、今1日10個の計算で制作してというふうな形にしております。これも、作った当初は、かなり窓口のほうに来られて、くださってという方がいらっしゃいましたけど、今はどちらかというとイベント等に来られた方にお配りしてという状況での使い方が多くなっております。一応計算上は1日10個という形でやっておりますけれども、一応今年度、今現在で2,200個ぐらい使っております。定型的ないわゆるスマイルマークのパターンだけじゃなくて、イベントイベントに応じて少しアレンジしたデザインにしてというふうな形で、こちらのほうも楽しみながら、また、お配りした相手も非常に喜んでいただきながらというふうな形で、コミュニケーションのいいツールにはなっているのかなというふうには考えておりますので、またこれも、手作りでやっております。柔軟にずっとデザインなんかも変えながらやっていけますので、そういった形でロゴマークの普及ということと、それを通じた市民の皆さんとのコミュニケーションのツールとして、今後も役立てていきたいと考えております。以上です。

伊場勇副分科会長 そのロゴマークを使った缶バッジをそういった意味もありながら、やはり何かもう一つ、例えばそのオレンジフェアがありますよね。そのときには、その缶バッジを持っておかないとそのサービスが受けられませんよとか、そういった何かこういういろいろ連動してやっていく。連動して何かこう使っていくっていうようなやり方も必要なんじゃないかなと思いますけど、その点いかがですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 今御指摘のような形での工夫というのは、いろいろしていきたいと思っております。たしか今年度も竜王山ウォークというのがあります。竜王山ウォークに参加された方には缶バッジが配られるんですけど、その缶バッジをハロウィンのイベント会場に持って来られた方には、ブースのほうでプレゼントとして配るとい

うふうな形での連動もしておりましたし、今後もそういった形での使い方を考えていきたいと思っております。

山田伸幸委員 来嶋又兵衛はどのように生かされるのでしょうか。せっかくポスターも作り、一部にコアなファンがいらっしゃるというのも分かったんですけど、かなりお金も掛けて作られたと思うんですけど、いかがでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 来嶋又兵衛のデザインにつきましては、観光協会の事業といたしまして、昨年度、明治維新150年を記念してデザイン化したものです。こちらにつきましては御承知のとおり、今年度はハロウィンイベントなんかでも、メインのキャラクターのような形で使わせていただきましたし、今まだ作業中ですが、また、今新しいキャラクターとしてもちょっと和泉式部というものも、かるたのまちというものも掛け合わせながら、男性のキャラクター女性のキャラクターという形の作業をしているところです。また今後は、そういったペアでの使い方とかいうことも含めまして、これは主に観光協会の取組になるかと思っておりますけれども、しっかりと生かしていきたいと考えております。グッズの活用、作成とかですね、そういった形も含めて考えております。以上です。

山田伸幸委員 ああいうキャラクターというのは、やはりいつかそういう担当課から離れて、いろんな方が活用するようになって初めて一人前になってくると思うんですよ。そういった意味でいうと、なかなか自由に市民の方がそれを使って新しい商品開発とかが、今できていないんじゃないかなと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 観光協会のキャラクターにつきましては、これまで広く皆さんに使ってくださってというふうな形での制度設計といいますか、ルールを作っておらなかった。この度、また

改めて今二体目のキャラクターを作るに当たりまして市のスマイルロゴマーク、これは皆さんにどうぞ自由に使ってくださいという形で使用承認をしていただければ使えるというふうな今ルールを作っております。これに倣った形で、観光協会のほうでも、そのキャラクターを無償で自由に使っていただける、そういった手続を今整理しておりますので、それがきちんとできれば、また市民の皆様にもしっかりと周知をして、自由に使っていただけるような形にしたいとは考えております。

奥良秀委員 41ページの先ほど来から出ているスマイルプランナー制度についてなんですが、シビックプライドを醸成するためにスマイルプランナーの制度を用いるということで、ファンや仲間も作っていくっていうのは理解できるんですが、去年の代表質問の際にさせてもらった内容で、もちろん市民が自主性を持って市政にも取り組んでいこうというのは分かるんですが、やはり市職員も市民の一員として、市を盛り上げていくという考えの中、スマイルプランナー制度、さて市の職員の方は、1年間たつ中で何人ぐらい入れているか、分かれば教えてください。

中村シティセールス課地域政策係長 申し訳ございません。ちょっと職員の数を拾ってきておりませんが、各年度実際活動報告ということで、皆さんに報告書を出していただこうと思っておりまして、そういう仕組みになっておりまして、今ちょっとその辺の書類の送付の手続をしておるんですけれども、ちょっと感覚的で申し訳ないんですが、個人で言いますと158人いらっしゃる中の半分よりは少し少ないかな、職員の割合がですね。その程度と思っております。

奥良秀委員 是非やはりこれは市長が進められている提案のものなので、全庁的にやっていただかないと、やはり市民の方もついてこないのかなというところがありますので、強制権はないとは思いますが、是非ともよろしくをお願いします。意見です。

中岡英二委員 シティセールスのPR強化っていうところ、59ページです。

その中で、新たに小倉駅の3階にデジタルサイネージを活用し、交流人口を図るとありますが、これ、具体的な小倉駅の3階にされたのはなぜされたのか。そしてこれにより流すサイネージの活用っていうか、その辺ちょっと具体的に1年間流すのか、どのような活用を考えているのか、お聞かせください。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 はい。まず小倉駅をなぜ選んだのかという点です。こちらにつきましては、ちょっと先ほど議論もありましたけれども、昨年度行った観光の調査の結果の提案の中にもございまして、山陽小野田市が観光交流の人口を増やしていくのであれば、当面のメインターゲットとしては、近隣市及び北部九州エリア辺りをまず設定して、近いところからしっかりと日帰りでも呼び込めるような形の施策を取っていくべきだというのがまずありました。それで、まず北部九州を設定しております。小倉駅につきましては、当然北九州市内の方もいらっしゃるし、下関あるいはこの辺りからも通学通勤で通われる方もいらっしゃいます。下関辺りの方も目にとまるであろうという狙いもまた一つあります。そして、今、もともと新幹線厚狭駅にポスターを掲示しております。新山口駅の方の南北自由通路には、別の事業ですけども、7市町が連携したPR事業の中で、同じようにデジタルサイネージを置いているというものがあります。次はどこにするのかっていう中で、小倉駅に置いたという格好です。来年度は今、予定ではですね、予算上、1年間使わせていただくというものを予定しております。以上です。

中岡英二委員 流す内容っていうか、そういうのは決まっているんですか、どのようなもの流すかと。

中村シティセールス課地域政策係長 こちらのデジタルサイネージなんですけれども、65インチのもので、内容としては、静止画でも動画でも可能

となっておりますので、具体的に1年間同じものなのかとか、数か月単位で変えるのかっていうところまでは、まだ詳細は決めてはおりませんが、途中で入替えも可能と聞いておりますので、シーズンに応じたものを流したり、今年度作りました観光プロモーション動画の活用とか、あとポスターのデータとか、様々な活用できるツールがありますので、それらを効果的に使っていけるように検討したいと考えております。

中岡英二委員 私は、ユーチューブ等で今の観光でかなり流されている動画があり、それを見ていますけども、大変よくできていると思いますので、そういうのも流して市のPRにつなげてください。これは要望です。

山田伸幸委員 今、コマーシャルなんかでもやられていて、私は非常にいい作品を作ったんじゃないかなと思っておりますが、できたら、よそに出されるのであれば、やはり四季折々に作られるべきだと思っています。というのも、よく花のシーズンには、花が一番よく見えるベストなポジションで撮ってそれを発信したりしているんですが、やはり、そういったものを目にすると行ってみたいくなるんですね、どうしても人というのは。特に私が感心しているのが花の海です。花の海では、春先は赤い花のポピーですかね。ポピーなんかを前面に押し出しておられますし、夏はひまわり、秋はコスモス、ほかのものと組み合わせて発信すると、それ1か所だけにとどまらないということになりますので、そういった戦略を持って動画を作られて配信されたらどうかなと思います。現在の動画っていうのは、どういった業者に幾らぐらいの予算で作られたものなんでしょうか。

原野シティセールス課観光振興係長 今回作成しましたプロモーション動画につきましては、業者は公募型のプロポーザルで実施しまして、その中からY A Bが受託されております。動画の金額ということで受託金額につきましては、動画の作成費とそれの放映に係るプロモーションの経費を含めまして、450万円ということで決定させていただいております。

山田伸幸委員 金額がやはり相当掛かっているとちょっと今聞いて思ったんですけど、それに値するぐらいの、やっぱり目にした方が行ってみたいくなるような動画だと思ったので、やはりそれを是非四季分作っていただく。もしくは市のほうで頑張って、それが好きな人もいらっしゃると思いますので、そういった人の能力を生かしながら作られてもいいんじゃないかなと思うんですけど。是非、市内の四季折々に合わせた観光スポットの掘り起こしと併せて、そういった発信に是非取り組んでいただきたいと思いますと思うんです。どうですか、庁内にそういう好きな方もいらっしゃると思うんですけど、掘り起こしをされてみたら。いかがでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 今の御提案、今後全て業者の方にお願ひしてお金を掛けて作るという方法だけじゃなくて、職員が手作りのような、ちょっと質はあれですけども、というふうなことも考えて、当然そういったスキルを持った職員もおりますので、何とかチャレンジもしていきたいなと考えております。

笹木慶之委員 市の魅力をPRして市の認知度の向上、人口交流の促進、更にはサポート寄附と、こういう狙いを持っておられて、随分多くの方が熱心に取り組まれていることは評価しますが、その実績はどのようにつかんでおられるのでしょうか。資料をちょっと頂きましたが、全くその姿が見えないので、やはり実績をきちっと掌握しながら進んでいくことが大事じゃないかと思いますが、それがまず1点。2点目は、先ほど評価事由のところ、文句なしに37点のところは重点プロジェクトであるからということの大義名分で最高点を付けておられる。ところが、実績評価はされなかったのかという疑問が湧くわけですね。加えて、例えば、63ページについては35点が付いているんです。その辺りがどうも姿がよく見えないので、まず実績を教えてくださいたいのと、それからその取組の実態が、どのような事業を評価しておられるのか。その2点お尋ねします。

河野朋子分科会長 実績ってというのは、成果ということですか。何の実績ですか。

笹木慶之委員 知名度の向上を図るということでしょ、まず1点は。どのような実績が見られたか、あるいは、交流人口が増加、これはもう取り組まれて一定の時間がたっていますが、道半ばであることは分かりますが、現状把握。それから、サポート寄附への程度の貢献があったのか。やはり現状をつかんで、次の政策を打たないと。日々、物すごい速いスピードで動いておりますから、なおさらなことだと思いますが、そのところをまずお尋ねします。

河野朋子分科会長 一つ一つの事務事業評価のところ、今成果指標というのをほとんど挙げられてないっていうのは、ちょっと関連で、多分あると思うんですけど、その辺の考え方とか…

笹木慶之委員 まず先に今の実績を聞いているんです。

河野朋子分科会長 成果のところ、成果がほとんど見えないけど、成果はどうなっているかっていうことを多分聞かれているんだと思うんですよ。どれぐらい知名度が上がったかとか、今どれぐらい交流人口が増えたかとか、そういう成果を今、質問されていると思いますが、今答えられますか。それについてはいかがですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 個別の事務事業ごとの指標に照らしたのではなくて、大きい意味での効果といいますか、そういうふうなことで、どの程度分かっているのかということだと思っております。まずその認知度と、これをどのようにして評価していくのかというのはなかなか捉えどころがないんですけれども、先般、本会議場でも、少し材料として出されておりましたある民間業者さんが、統計データを取られ

ていた魅力度調査とか、そういったものは一つあるのかなど。これあくまでも参考ですけど、こちらはまだまだ全国的な順位としては低いということをお考えれば、まだまだ努力が足りてない、うまくいってない部分もあるんだろうということはあるかと思えます。もう1点、指標として考えられるのは、観光客の動態調査の結果があります。こちらは毎年6月頃に県が取りまとめて公表することになっており、平成30年が107万6,000人ぐらいだったかな、直近のデータとなっております。令和元年につきましては、先ほど申しましたように、この6月ぐらいに公表されるということになります。こちらでも集計のちょっとお手伝いもさせていただいているんですけども、おおむね平成30年よりは増えておるといふ傾向は捉えられるなと思っておりますので、こういったPR事業、観光を含めてですが、成果として少しずつ様々な事業の総体として観光客の増にはつながっているんだろうなという認識はしております。

笹木慶之委員　それで、今の評価のことなんですが、自己評価しても評価にならないんですよ。いわゆる第三者評価、相手方があってのことなんだと思うんですよ。実は、これ、例えば一つの例ですが、宝島社が調査しましたよね。宇部市がトップになったということで、その隣のまちということなんですが、宝島社に限ったことではないんですが、やっぱり何かそういったものでやっぱりチェックしてみないと、皆さんがどう思っている分かんじじゃないですか。問題はそこだと思うんですよ。だから、いろんなところにアンテナを張っておられると思いますが、一生懸命やることはいいんだけど、やっぱり成果が出てこないとやはりこれって方向性がいいのかなということにもつながる場合もあるだろうし、そのことが、さっき言った37点という評価、重点プロジェクトに挙げているからもう37点なんだという、この妥当性と有効性と効率性を見ていったならば、実際の評価にならないんじゃないかと思うんですよ。前提論でもう満点過ぎているわけですから、だから、満点を付けた事業だからこそ、なおさらエネルギーを出して全力挙げて投球する、その成

果はどうであったかを見ないと、私は評価にならないと思うんですが、それで今数字を聞いたわけです。したがって、それは部外的な、第三者的な立場から見たときに、外から見たときに、山陽小野田ってこうだねって評価があったことによって、逆に行ったほうがやっぱり評価につながってくると思うんですが、その辺りどう思われますか。

古川副市長 今、評価の件ですが、まだ、先ほど次長も申しましたように一緒に就いたばかりと。現在進行形ということで、まずひとつ御理解をいただきたいというのと、本会議場でも、隣の宇部市さんの方が、田舎のまちというんで、10万人から20万人の都市で一位になりました。その調査につきましては、ちょっと私どものほうもエントリーをしてなかったということの反省点はあるわけですが、一方では、住みよさランキングでは、県内でも2位という高い評価を頂いております。このように、いろんな角度によって、市の魅力度とか、やはり外から見ての評価は変わってくるとは思いますが、今委員がおっしゃられましたように、やはり、客観的な指標というのは大きな着眼点になろうと思いますので、そういうところも視野に入れながら、今後とも山陽小野田市の情報発信を進めていきたいというふうに考えます。

笹木慶之委員 最近、それで代表質問のときに少し言いましたけど、山口県全体を見たときに、全体の評価はそんなに高くないんですよね。25位か26位ぐらいの評価。これ、ある調査で見たときにね。ところが、働きやすさとか、働きやすいってところは本当トップなんですよ。それはなぜかといったら、特に女性に人気がある、女性が働きやすい。それは、労働の過重性がないということ。それからフリーな、自由時間が多いということ。それから、女性を評価してもらえるとこのね、これある特定の企業がどうも影響しているようなんですが。ということは、私は悪い環境ではないと思うんです、山陽小野田は。そういったことの要素を持っておるわけですから、決して非難してないですよ。どうぞやってほしいから言うんですが、やっぱりそういったところももう少し見ながら、

ただ一片的に認知度を高めるだけやなしに、こんな利点があるよっていうことをもっと打ち出していったPRが、私はいいんじゃないかなと思っているわけです。だから、やっぱりそれは今の公だけではなしに、やっぱり皆さんが、産官学全部一緒になっての問題になろうかと思いますが、やっぱり国民っていうか皆さんに何を求めるというのかというところを、もう一回よく整理をされたPRということもやっぱり考えてほしいなと思いますが、いかがでしょうか。

川地地域振興部長 まず、外向けのお話につきましては、先ほど副市長も申し上げましたように、いろんな調査を活用して、客観的なやっぱり評価っていうのを私どもも見ながら、どこが悪いのか、どこがいいのかっていうのはやっぱり今後、一生懸命見つけていかないといけないなと思っています。いろんな資源がありまして、本市にもいろいろと特徴があります。笹木委員が言われるように、働きやすいまち、今うちが目指しているのは、子育て支援のいいまちっていうふうに思っておりますけども、これはなかなか地域振興部独自ではできませんで、やっぱこれ全庁体制でなければなりません。私どもも常日頃から職員向けに言っているのは、うちのホームページを活用して、本市のいいところをどんどんどんどんホームページで出していかないと、なかなか都市間競争には勝てません。いろいろスマイルキッズがありますよとか言っても、なかなか全国までに発信ができてないという状況なんで、その辺をいろいろと全庁体制で、今後ともやっていこうと思っております。さらには、今後の人口減少に対する人口減少抑制ですとか、定住人口に向けても、本市としてはいろいろやっていかなければなりませんし、企業誘致も更にそういった面では進めていかなきゃなりませんので、今後やっぱり市長をトップに、やっぱり全庁体制でいろいろと職員の協力を頂きながら、みんなで情報発信をして良いまちを作っていきたいなと思っておる次第です。

笹木慶之委員 最後になりますが、今おっしゃったとおりだと思います。やっぱり、人が住みたいというまちの筆頭に子育てがしやすいということが

やっぱりありますよね。だから、せっかくそれ売りに出しておられて、もちろんこの、こちらのほうも大事なことなただけけれども、全庁的体制の中で、もっとやっぱり力をほんとに合わせて、やっぱり前に進んでほしいというふうに思っています。だから、この度、組織が変わるような感じを持っていますが、これは決して消極的なことではなしに、今部長言われたような全庁に広がる体制を強化するという意味合いで受け止めていますので、それをやっぱり力強く出してほしい。だから、ただ広島に行って何をするとか、こういうことでないと思うんですよ。これは一つの手法ですけどね。否定はしませんが、やっぱり隠れたもっと膨大なものがあるわけですから、そのいわゆる先頭集団ということで、やっぱり考えた対応をしてほしいなということを意見として申し上げます。

川地地域振興部長 笹木委員のおっしゃるとおり、重々よく承知しながらいろんなことをやっていきたいですし、いろんな手法もありますので、我々もいろんな手法を使いながら情報発信していきたいなということも考えております。それから評価の件ですけど、37点とか35点とかは妥当性で、例えば目的の達成重点プロジェクトであるっていうやつは、これは企画政策課の客観的なちょっと判断基準に基づいて付けておりますので、私どもの主観的な意見ではありませんで、そういった客観的な基準に基づいて点数がちょっと付いているっていうのは、ちょっと御理解いただきたいと思っております。

山田伸幸委員 わがまちの魅力発信事業についてお伺いします。レノファ山口のホームゲームでのPRと、マツダスタジアムでのPRというのが挙げられているんですが、具体的には、これがどのように反映できたかっていうのと、何かこう返ってきたものというのは具体的にあるんでしょうか、いかがでしょうか。

原田シティセールス課課長補佐 昨年度、ふるさと納税の絡みで、広島のマツダスタジアムに行ってPRをしてまいりまして、ブース自体には

2,000名を超える方が来られましたし、3万3,000人という満席の中で広島でPRできたのが1点。その場でガラポン抽選等しまして山陽小野田市に来てもらえる仕掛け作りをしまして、例えばですけど、花の海さんの体験チケットとかきらら交流館での体験チケット、こちらにも配布して来ていただいたというものもありますし、その後、全部分析をしたわけではありませんけれども、広島地方からも数点のふるさと納税の申込みも上がっておりますので、それらが実績かと思っております。

伊場勇副分科会長 59、60ページの新しいCI戦略で、このデジタルサイネージで小倉の場所の意味は分かりました。広告料についてなんですけれども、両方で98万3,000円で、来年度までは地方創生推進交付金がありますが、その次の年、令和3年度は今のところちょっと分からないわけで、ただこれは続けていくべきものだと思うんですが、その辺今お考えはどうでしょうか。

原田シティセールス課課長補佐 我々もこのまま続けていくべきだと今のところ認識しております。ただ地方創生推進交付金につきましては、当初3年間となっておりますので、今年度事業までと認識しております。

伊場勇副分科会長 それと、その広告料の厚狭駅が38万8,300円。まず、この金額は高い安いがあると思うんですけど、やはり厚狭駅も、やはりその利用者が増えればうれしいわけで、山陽小野田市としてもそのPRをして利用が増えたとやっぱりうれしいわけで、お互いウインウインの関係性を作り上げるわけじゃないですか。そこで、この金額っていうのは、何かいろいろお互い交渉をしたりとか、この金額ですって言われたのをそのままのみにしたのか、その辺は何かあったのかなと思って。

原田シティセールス課課長補佐 この金額につきましては、厚狭駅の中でも広告掲示ができるスペース、これはJRコミュニケーションズというところになりまして、この1社だけができる権利がありますので、若干まけ

ていただいた部分もあるんですけども、基本的にはこの金額でやっております。ただ、これだけではございませんで、JR厚狭駅のほうで、この専用の広告スペース以外のところにつきましても、例えば、駅の構内、新幹線口入りまして左手ですけども、ガラスのモニュメントを置かせていただいたり、これらを無料でやっていただいておりますし、また、先般のハロウィン時期に関しましては、厚狭駅の在来線口の上のほうに看板を無料で掲示させていただいたりと御協力をいただいております。我々も両方でウインウインの関係になるように、いろいろ御協力をいただいております。

伊場勇副分科会長 しっかり信頼関係を作っていただきたいなと思います。あと、次の小倉駅なんですけど、1枠15秒って書いていますけども、何回ぐらい、放送というか、掲示されるんでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 15秒が1枠で、2分間がワンロールになっておると聞いておりますので、それで、朝7時から夜11時までと聞いておりますので、回数にすればかなり出るようになるかと思っております。

奥良秀委員 42ページの印刷製本費、令和元年度が11万円使われていて、スマイルプランナー制度の手引を多分作られていると思うんですが、これって、もう令和元年度全て作られたものは全てもう配られたという認識でよろしいでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 令和元年度に作ったものを全部消費しているわけではございませんけれども、イベントとか何かしら説明会、みんなdeスマイルトークですか、そういったところに出掛けて行って、団体さんにお配りしたりしておりますので、大半使用しておりますので、また、来年度も引き続き作成を予定しております。

奥良秀委員 令和2年度も、やはり印刷製本費で1,000部作られますとい

う流れの中で、先ほど要は回答の中で、今からいろいろと何をされたか、
どういった実績があったかっていうことを今まとめられているということ
があったので、こういう製本というか、またスマイルプランナー制度
の手引をリニューアルして、こういうこともできるんですよとか、こう
いう喜びもあるんですよっていったものも、入れていかれたほうがもっ
と効果的な手引として行えると思うんですが、いかがでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 ありがとうございます。皆さんから頂いた活動実績なんですけれども、取りまとめをさせていただいて、ホームページ等での公表は考えておったんですけれども、手引に具体的にこの活動の事例とか、スマイルプランナーさんのお声を入れるっていうのはとてもいいアイデアを頂いたと思いますので、そういったことができるように、こちらも考えていきたいと思っています。

奥良秀委員 これは意見なんですけど、私の周りに、なかなかそのSNSとかホームページとか見れるような、やはり年代の人もいますけど、そうじゃない方もたくさんいらっしゃいますので、できれば双方が分かり合えるようなものができていけばいいと思いますので、その辺は意見としてよろしくをお願いします。

山田伸幸委員 先頃マンホールのデザインが変わって、玄関のところに飾ってあったときに私はすぐさまそれを写真に撮って、自分のフェイスブック等にアップしていったんですけど、やはり非常に注目をされているんですね。これはよそに行ったときにびっくりしたんですけど、もう人が並んでマンホールカードを手に入れるということです。切れていて、あと在庫これだけです、要る人って言ったら、周りの人がみんな手を挙げてというのがあって、こういう売り出し方もあるんだなと思ったんですけど、このマンホールカードといいますかマンホールデザインと缶バッジのコラボもあってもいいんじゃないかなあと思っているんですけど、マンホールカードのデザインというのは、そちらシティセールスでは使

えないのでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 今お話のありましたデザインマンホールを作ったのは下水道課の事業でありました。そのデザインに關しましてはシティセールス課からも、いろいろアドバイスといったらおかしいんですけれども、市が今売り込みたいイメージ発信の中心となるのはくぐり岩になるので、そういったものを入れてくれという話をしたりとかで、デザインにつきましてはシティセールス課と一緒に作っていたという思いもあります。こちらにつきましては、また下水道課さんのほうでマンホールカードというものを作っている団体があって、そちらに年2回ぐらいのタイミングで申請ができるらしいんですね。申請に通れば作ってもいいよということになるという状況の中で、通ったということなので、近々作られるんではないかなと思います。まずカードは近々できるであろうと。またそれから缶バッジにもということも、これも今御提案いただきましたので、またちょっと検討はしていきたいと思っております。

河野朋子分科会長 あと他に質疑は。なければ次の事業に移っていいですか。

10番。はい、お願いします。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 では47ページを御覧ください。審査事業10番、ハロウィンイベント実施事業について御説明をします。まず事業の概要です。昨年度に引き続き、ハロウィンをモチーフとして、10月下旬に映像等を効果的に活用したプロモーション作品の上映やステージショー等の参加型イベントを開催して、市の魅力を大々的にPRするとともに、関わった市民に地元への誇りや愛着の醸成を図ります。また、合わせまして10月の1か月間スマイルオレンジフェアを実施し、市内全域における交流人口の増加を図ります。次に指標ですが、市の魅力を発信するイベントを多くの市民とともに実施するものであることから、映像で取り上げる地域資源の数やスタッフとして参加する市民等の

人数、そしてメインイベントであるスマイルハロウィン・パーティーへの集客数を掲げ、それぞれ目標値を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業等ということで37点の評価となっています。48ページには、予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、イベントの実施主体である実行委員会スタジオ・スマイルへの補助金1,000万円。財源としましては、地方創生推進交付金500万円、一般財源500万円を充当しております。49ページから51ページには、事業の内容を記載しております。改めて御説明させていただきますと、当該事業は、観光・交流の振興に関心が低い市民が多いとされている本市において、シティセールスを定着させるための観光・交流の風土づくりを行うことを主な目的としております。そして、新たなまちづくりの担い手の確保を意図して、若者をターゲットとしていること、その若者世代を中心に市民が抱く本市への求心力をより一層高めていくことができる場所として、おのだサンパーク等を会場に選定していること、オレンジやかぼちゃ等山陽小野田市との親和性が高いことから「ハロウィン」をモチーフとしていること、そして、市内の若者の感性や技量を活用した事業を行うことなどを骨格としております。51ページには、今年度の実績とそれを踏まえた来年度の課題をお示ししております。実行委員会におきましても関心の高いプロジェクトマッピングをどうするのかにつきましては、専門家に頼ってCGを多用した映像作品を制作する方向ではなく、もっと市民が制作する、市民が登場する、といった形で、市民が市の魅力をPRすることをより楽しめるような映像を制作・上映する方法を取ることにより、事業の効果を高めるとともに予算を押さえ、その分を人気の高かったステージイベント等へ振り分けるような形を取りたいと考えております。説明は以上です。

河野朋子分科会長 説明が終わりましたので、この事業について質疑を受けません。質疑はありますか。

中岡英二委員 私もこのイベントに参加させていただきました。市民参加型のす

ごく特に若い家族、若者もしかりですけど、若い家族の参加が多かったと思います。しかし課題として、厚狭地区、小野田地区を含め余り知らなかったと、このイベントがあることを知らなかったと。その原因は何かなと思うと、このイベントの告知用の動画制作費16万円、その他の広告事業等が35万円と。PRに関わる支出が全体の4.6%とすごく少なかったと思うんですよ。その辺の改善というか、その辺をどのように考えておられるか。それと先ほどもありましたけど、プロジェクションマッピングを、皆さんすごく、期待していた方が多かったです。私を含め。特に長崎のハウステンボスとかで見られた方が無料で見られるのに、それと比較するのはおかしいんですけど、多少その辺の期待がちょっと期待しすぎたっていうか期待外れだったという声を聞きました。先ほど、その内容を変えるということがありましたので、その辺のPRの仕方、今年はどうのように変えていかれるか、ちょっとお聞きします。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 今年度の取組の中で、PRが弱かったというか、もうちょっとしっかりと予算も掛けてしっかりとやるべきじゃなかったかという反省は実行委員会のほうでもありました。どのような形でやっていくことがより浸透するのかというのは、なかなか難しい問題もありまして、例えばローカル局でもテレビ局でも使ってCMなんか流せばもっと認知されるんじゃないかという意見も出たりしてはいますけれども、やはり限られた予算の中でどこまでやれるのかというふうなこともあります。いずれにいたしましても、今年度弱かったそのPRというところをいかに来年度しっかりと強化できるかという点につきましては、しっかりと様々な方の意見を聞きながら、実行委員会でよりよいものに考えてやっていきたいと思っております。それから、プロジェクションマッピング、私どもも期待してこれが目玉になってたくさんの人を呼んでというふうなことで考えておりました。実際、ある程度呼び水になっている部分があると思います。プロジェクションマッピングがあるということで、お客さんがたくさん来られたと。結果、ちょっとがっかりしたというふうなことを言われた方も確かにいらっしゃいますけれ

ども、これは狙いとして、プロジェクションマッピングというものが割と目について耳にとまって、みんなの関心を引いてお客さんが来るんじゃないかというところまでは、ある程度成功したというか当たっていた。ただし、できたものが、それを楽しみにしてこられた方の満足度を満たすことができなかったという結果になっております。なぜそうだったのかということ、いろいろと実行委員会のほうでも考えておったんですけれども、やはり時間的な問題、4月からスタートして10月までの中でやっていく、CGの凝った作品を作るのはやはり時間が足りなかったとかいうこともありましたし、予算的にもう少しないともっといいものができないんじゃないかという意見もありました。その辺りは上を目指していけばきりがないと考えておりますので、来年度、より良いものにするためにはどうするかというところで、今年度撮ったようなCGとか、あるいはアニメーション、先ほどありました来嶋又兵衛をもっと動かしていくっていうふうな方向で考えると、ばくだいなお金が掛かってしまいますので、そういった方向ではなくて、もっと市民が撮影した映像であったり、市民が映像の中に登場するであったりっていうふうな方向でのプロジェクションマッピングというか、巨大なスクリーンを使った映像の企画、そういったものでお客様も楽しめるような方法を考えていこうというふうなこと。一方で、そこで少し予算が抑えられましたら、今年度人気が高かった仮装パレードとかステージとか、そういったものに少し振り分けていくということで、より効果の高いものにしていこうと考えているのが、今の時点での実行委員会のお考えです。

中岡英二委員 事業としては、参加型。先ほども言いましたけど、本当に若い御家族がすごく楽しんでおられました。パレードにしても仮装についても、やはりこれは私はすごくいいイベントだと思います。これは長く続けていっていただきたいと思いますし、その後の今動画も流されていますよね、たしか。やったことの経過を楽しく流されていますけど、そういうことも続けていければ、ひょっとしたらこの事業は山陽小野田市の目玉のイベントになっていくんじゃないかと私は考えております。2

年、3年、4年、とにかく予算の許す限りやっていただきたいなと思っております。

奥良秀委員 このハロウィンイベント、今年もやるということなんですが、日にちですね、これたしか10月の最終の土曜日だったか日曜日だったか第3か、20日ですかね、今年、20日ですね。これは、このハロウィンイベントっていうのは、今回今年度やられれば2回目ということで、その前にずっとやられてやっぱり10月っていうのをお祭りのシーズンであって、私もこれ朝からちょっと地元の祭りがありまして、途中から参加という形なんですが、そういう日にちの設定っていうのは、どういうふうな感じでされているんですか。地域のいろいろなそういう事情は全く考えられなくて、ぽんと決められているんですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 ハロウィンだから10月というところがまず、こちらとしても動かし難いところではあったんですけども、その中で、10月のいつの週末にやるのかということは、実行委員会でも毎年、今年度1回目でしたけどもこのときも、かなり思案いたしました。それはやはり大きなイベントがたくさんありまして、そういったイベント等の重複っていうのは極力避けるべきだという判断です。来年度につきましても、今のところは10月の18日ぐらいになるんじゃないかなと。日曜日と考えておりますけれども、これも、既存の大きなイベントを避けるべきだと。あとは理科大の竜王祭が来年度は11月から10月の24日、25日ぐらいに前倒しされるという話もありましたので、それは避けようじゃないかということなどもいろいろ踏まえて考えております。結果的に、どうしてもやはり重複するイベントが出てくるのはありますけれども、そこはうまくお邪魔しないような形でできればなと考えております。最大限配慮しながら、日程を決めているというところです。

山田伸幸委員 ディスプレイコンテストのことを伺いたいんですが、これは何

かいろいろ確かにやっておられたんですけど、アピールが弱かったんではないかなと思っています。せっかくコンテストまでされたんですから、やはりある程度前倒しで審査をされて、ここが良かったんだよっていうのを何かで発信をして、たくさんの人に見ていただくというふうなことも、あってもよかったんかなと思います。商工会議所の協力があったあそこまで広げられたと思うんですけど、まだまだ少なかったんではないかなと思うんですけど、一体目標は何件ぐらいを目標で、実際に何人、何件ぐらいの方が参加されたんでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 スマイルオレンジフェアのほうでは、特別なサービスを提供しようというお店とディスプレイコンテストに参加しようという2種類の形で参加できますよというものでありました。当初の目的は、目標は50店ぐらい何とか確保しようと考えておりましたところが、小野田商工会議所の大きな大きな協力を頂きまして、結果的には101店舗の御協力を頂けたということになっております。事前の告知なども、もっともっとしていけばもっと盛り上がったんじゃないかということですが、おっしゃるとおりでございまして、ホームページ、フェイスブックなどで少しずつそのディスプレイコンテストに参加してらっしゃるお店の紹介などはしておりましたけれども、やはりそれだけじゃ全く足らなかったという状況でありましたので、この辺りのPRも来年度はしっかりとやっていきたいと考えております。

奥良秀委員 今回の関連なんですけど、資料恵与のほうで参加店舗のイベント終了後の感想等についてということでちょっとお聞きしてまして、参加した感想が63.6%で面白かった、良かったっていうのがあったんですけど、来客売上げへの影響があったかっていうのが、なかった方が78.8%なんですよね。だから、実際問題、お祭りとしてはいいけれど、実際協力してみても売上げには相応な結果は出てないよというような状況下の中で、今後回答には78.8%が次回も参加の意向はあるんですけど、やはり参加していただく限りは、何かしらのメリットっていうものがあったら

しかるべきであって、しかもこの要はコミュニケーションになったかっ
ていうことで3%がコミュニケーションになったと。ほかはなってない
んですよね。なってないっていうか、アンケートがどういうふうなアン
ケートかちょっと分からないんで、何とも言えませんが、3%の数字を
見るとそんなには、これがツールとしてコミュニケーションが取れると
は私は思えないんですが、今後、やはり参加してもらうためにはやはり
ギブアンドテイクの部分はやっぱり必要だと思いますが、もっとこう売
上げが上がることを考えられるとしては、どういうことをやられたらいい
と思われませんか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 オレンジフェアの参加店舗のアン
ケートの結果は厳しいものがありましたけれども、これも実際のところ
だと思います。初年度は、何分にも10月20日のメインイベントを何
とか成功させなければいけないっていう考え方の中で、どうしてもそち
らに注力してこちらのオレンジフェアのほうにしっかり力を入れること
ができなかったという反省があります。実際に、やはり参加していただ
いたところに、のぼりを立てていただいたり、シールを貼っていただい
たり、ホームページにもお店のほうの紹介もしましたが、それだけでお
客さんが来るのかといったら多分来ないんですね。もう少しやっぱりお
客さんがちゃんと来るような仕掛けを考えるべきであったと。お店のほ
うからの提案があったのも、やはりスタンプラリーみたいなものでやっ
てはどうかと。飲食店なんかだと割とお客さんがお店に入りやすいけれ
ども、そうじゃないお店はなかなかディスプレイがあるからといって、
お店に入りにくいということもありました。そういう新しい仕掛けがあ
れば、もっともっと気軽にお店に入ってくれるんじゃないかと。お店に
入ってくれば、少し買い物するかもしれないというのがありますので、
何とかそういう参加店舗にお客さんが足を運ぶような仕組みづくりとい
うのは、しっかりと来年度に向けて構築していきたいと思っております。
先ほどちょっとアンケートの結果の中にありました、お客さんとのコミ
ュニケーションになったのが3%というのは、あくまでも売上げへの影

響があったかなかったかっていう設問の二者択一の中で、参考意見として、自由意見で書いていただけたんです。売上げには直接つながらなかったけど、お客さんとのコミュニケーション、あるいはスタッフ間でのコミュニケーション、今度どんなディスプレイをしようかとか、どんな格好をしてお客さんを迎えようかっていうふうな形で、お店の中で楽しかったですよっていう御意見が頂けたので、それはそれとして記載をさせていただいたところです。

奥良秀委員 このイベントに参加されて、一位というかグランプリを取られた会社というのは、私はよく知っているところなんですけど、大変従業員の方も、一位になられて喜ばれてたっていうのを私も存じ上げてますので、またこういうイベントを活用されて、また地元の経済というか店舗の売上げが上がればいいなと考えております。50ページに、メイン会場はどこかっていうところにあるんですが、「おのだサンパークほか市内の商業施設」っていうのが、「ほか市内の商業施設」がメイン会場とは、どこになるんですかねというような質問になるんですが、サンパークのほかにどっかあったんですかね。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 すいません。メイン会場というくりにしておりますからちょっと誤解を招く表現だったかもしれませんが、今申しましたそのスマイルオレンジフェアに参加していただいたお店ですね。それを含むということです。

長谷川知司委員 これは今年度と来年度、2か年だけの国の地方創生推進交付金ですね。それで、2年で結果を出せっていうのは大変でしょうけど、令和3年度からどういう形に持っていきたいというのが、もしあればお聞きしたいんですが。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 まずは2年間しっかりと目的に照らした形で結果を出していきたいと思っております。このまちにおいて、

この事業を引き続きやっていかなきゃいけないっていう認識をまず持つていただけるようにならなければ、市のほうで幾らやります、やりますと言ってもなかなか御理解いただけないと思っておりますので、2年目が勝負なのかなと思っておりますが、期待したいところはやはり、今この事業の目的、観光・交流の風土をしっかりと根づかせましょうよという目的があります。これは本当に長い戦いになると思っておりますので、事業の規模、あるいは中身が少し変わっていくとは思いますが、令和3年度以降も何とか続けていきたい、そういうふうな形に来年度は持っていきたいと考えております。以上です。

奥良秀委員 来客者数が2万7,000人ぐらいと本会議で発表があったんですが、実際は精査、どういった年齢層が来られて、たしか最初のこういう事業をやられるときには、若い人材というか、若い人を集めるためにこういう若者に受けるイベントをしますよって始められてると思うんですよ。市内外から若者を呼びたいという中で、2万7,000人来られましたと。実際、サンパーク、商業施設の中に入られているのもほぼ同数だと思うんですが、アンケート等々を私としたらどういう年齢層が来られて、どういうふうな活動をされたのかっていうアンケートで出てきてもよかったのかなと思うんですが、そういったデータのものを今お持ちでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 実行委員会としましても、事業をやるからには何らかのその効果測定をするための指標は要るであろうと、これは活動指標とか成果指標だけでなく、来店者の今言われたようなセグメント分析なんかもしっかりすべきだとも考えておまして、最終的にはやっぱり屋外でやるイベント、主に最後のプロジェクションマッピングが終わってすぐ解散ですよという中で、もう夜8時前ぐらいになって、もう終わったら駐車場から皆さん三々五々ば一と帰られるわけですね。そういった状況で、なかなかその感想を聞いたりっていうアンケートを取ったりというのがちょっとなかなか難しいだろうなというの

がありましたので、今年度はちょっとそこは実施しなかったということがありますが、サンプル的に仮装パレードに参加されたときの受付の状況から言いますと、実行委員会の事業実績にも少しまとめておりましたけれども、幼児・小学生・中学生・一般その他というな四つの区分で集計をしております、幼児・小学生が3分の2ぐらい、残りの3分の1が一般その他ということで、要は付き添いの御家族、小学生や幼児を連れた若い御家庭といますか、そういった御家族というか、そういった方々が中心の来客者層であったのかなとは、一つのサンプルですけども認識しております。

奥良秀委員 実際このプロジェクトは、この世代がターゲットだったんですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 この世代も含めますけれども、どちらかというと、もう少しティーンエイジャーといますか、高校生、大学生、そういった方々も含めて参加者として、できればもっと来て欲しかったなという思いはありました。

奥良秀委員 そうだと思います。私も、その当日にほかのイベントに行って、夕方、他の議員と一緒にいったんですけど、多分、市民館の辺から多分車が渋滞して、いろんなことを考えながら行ってたんですけど、思ったよりもなかなか人がやっぱり集まっていなかったのかなと。だから、やはり中岡委員も言われましたけどPR不足っていうのもありますが、やはりもうちょっとこう市民になじめるというか、市民目線でもう少しこういろんなことを配慮していかないと、やはりいきなりハロウィンイベントですよって言っても、すっと入ってこないと思うんですよね。だからその辺はもう少し押しつけではなくて、もっと市民目線でやりやすい、もうちょっと参加してみようかなとか。お祭りがあるんだったら、その辺はもう少しいろんな柔軟的な対応を取られてやらないと、やはり長続きしてこそ地元の祭りなんですよ。私もこれ10月の祭りと言って、ぱっと思いつくのがもうなくなった小野田まつりのことをすごく思い出

すんですけど、やはり1回なくなったら、もう復活できないと。これもやっぱり2年、3年続くのであれば、やっぱりそこを目指していかないといけないのであれば、もう少しいろんなことを考えていかれたほうがいいと思いますので、今後は、どういうふうになっていくか、私もちょっと想像ができませんし、地元の方々もたまたま小野田校区、サンパークも小野田校区なんですけど、同じところでもお祭りが別々でやってるっていうのも、私たちがお祭りやってるのに、あつちは勝手にお祭りやってるんだねというような感想もあるんですよ。そこにはやはり若いお父さんお母さんもいらっしゃいますので、どっちに行こうか迷うよねと。でもやっぱり自治会の祭りに行きますよね、普通であれば。だからその辺もやっぱりよく考えられて。厚狭のほうも少ないのであれば、厚狭のほうになぜ少ないかっていうのも、多分分かっていらっしゃると思うんですよ、理由としたら。だからその辺もよく研究されて、もっと交流人口が増えるようにやっていただきたいと思います。これは本当に意見で。決してもうこれでやめてほしいということではなくて、確かにプロジェクションマッピングはちょっと考えてほしいなっていうのがありますけど、本当に続くのであれば、市を代表するようなお祭りになってほしいなと思っています。意見です。

山田伸幸委員 プロジェクションマッピングについては、厳しい意見が続いておりますが、やはり、もう本物を見た人が、これも立派なもんだって思えるかっていうとそうじゃなかったというのが結論だと思うんです。やはりこれだけプロジェクションマッピングっていうのが世の中に出回ってきた中で、本物ではないと思わせてしまうようなものであったと思いますので、その辺は今後の改善の余地があると思います。あと人を集めることなんですけども、若者が中心だ。それが前面に出すぎて、私の御近所では誰も行っておられないんですよ。やはりその点も、家族そろって参加できるようなものに、何らかの方向性をちょっと変えていただいたほうが、多くの市民に喜ばれるんじゃないかなと思っています。実際に御近所の方からも、私たちには関係のないお祭りというふうに出

け取られているというのが実態だということでもあります。是非その点では、確かに若い人たちがやるっていうのはいいんですけど、若い人たちが、そういったお年を召した方も呼び寄せるんだといったことが必要ではなかったかなと思いますので、その点は今後の在り方を注視していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。これは意見ということだ。

奥良秀委員 51 ページなんですけど、令和元年度の実績状況の中で、令和2年度にないものというのが、PRソングを歌われた方の今後なんですけど、今年も活用される御予定なんですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 今年度作りました「さんハロへGO」という曲なんですけれども、とても分かりやすくて振り付けも付いてますけれども、私どもの周囲では人気を博した曲です。やはり1年、1年曲も変えて、人も変えてっていうんじゃ本当になじまないとは思ひますので、現時点では、来年度もこの曲もこの方にも御協力を頂けるようでしたら、御協力を頂きたいと思ひております。以上です。

山田伸幸委員 先ほど奥委員が言われました昔の小野田まつりのイメージということで、かつては議会も一緒に参加して、商工センターから市民館までパレードっていいですか、歩いて、市民の方と一緒にまちを盛り上げていくということをやってきたんですが、この度はちょっと私たちの出番もないですし、一参加者として会場に行くかどうかということだけ問われたんですね。その辺ではいろんな方が関わるということに、是非方向転換していただきたいというふうには思ひておりますが、その点ではいかがでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 地域の行事やイベントとして末永く定着していくためには、一部の人間だけが楽しんでもというようなものでは長続きしないというか、定着はしないと思ひておりますので、取

り組んでいく中で、いろいろな方々を巻き込みながら、このイベントが大きなものになっていけばというふうには思っております。また一方では、やはりベテランの方々が入ってこられると、若い人たちがちょっとなかなかですね躊躇して動けないというふうな意見もまたあったりしますので、今はこの事業をですね、やっぱり次世代を育てるといいますか、次の世代の若い人、まちづくりの担い手を発掘するんだというふうな一番の目的といいますかね、そういったものをしっかりと実現しつつ、経験がある方や幅広い世代の方々にも、お助けいただくようなものになればなというふうには考えております。以上です。

奥良秀委員 令和元年度のステージイベントの件で、いろいろな踊りとか、そういうことをされていたと思うんですが、中で問題みたいなものはなかったですかね。出演者同士であったりとか、編集するトップの方と演者というか踊られる方とのトラブル等々はなかったでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 当日、実はちょっと揉めたといえますか、出演者の団体とこちらをお願いをしていた舞台監督と意見の食い違いがあったということが1件ありまして、これは事実です。内容といたしましては舞台監督さんが安全性を確保したいというふうなことから、当日現場にありましたステージの上に何人の人が上がるのか、そのステージの上でどんな踊りをするのかというふうなことを確認したかったですけれども、出演団体さんの方は、そんなこと何であなたに言わなきゃいけないのかと。今この段階で、もうステージに上がる直前だったので、ちょっと今この段階でそういうことを言われても困るんだみたいな話で、少し揉めたというふうなのがありましたけれども、そこはしっかりと双方大人なので、収めていただいたという状況でした。

奥良秀委員 そういうことが、やはり前日とか寸前とかってということがないように、やはりイベントで、皆さんで楽しもうと思われてるのであれば、

前もって実行委員会もありますので、きちんと話をされて、その当日であつたりとか前日には揉めないように、是非ともお願いして、もう絶対出たくないとかって言われてましたので、そういうことがないようによろしくをお願いします。

伊場勇副分科会長 令和2年度のメーンは、実行委員会でまた決められると思うんですけど、メーンは、今担当課は何なんだというふうに思っ進めようとしていますか。メーン、このスマイルハロウィンの。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 これもまだまだ実行委員会のメンバーで、しっかり考えていかなければいけないものだと考えております。なかなか市のほうの事務局の思いを押しつけてというふうなことではいけないと思っておりますので、もっともっとたくさん意見を頂きたいなというふうには思っておりますけれども、今考えておりますのは、また後ほどお話もあると思いますが、来年度は東京パラリンピックでパラサイクリング日本ナショナルチームの活躍も期待される。もう本番は終わっていますので、恐らくすばらしい成績を残されるであろう選手たちが、この会場に来て、市民の方々と触れ合うような機会が作れないかなというふうなのも一つ企画としては考えておると、あとは、今ちょっとコロナ騒ぎでなかなかかき消されてますけれども、オーストラリアのほうで森林火災で大変なことになって、山陽小野田市も姉妹都市があります。そういったところを支援するような、楽しみながら支援するような企画なんかも盛り込めないかというふうなことも考えたりもしておりますし、その辺りもっともっといろいろアイデアがあると思っておりますけれども、何か山陽小野田市らしいネタとして、提供していくことができたならなどは考えております。

伊場勇副分科会長 メーンは何ですかって聞いたのが、やはりハロウィンパーティーって聞いて、何だろうかって多分思われると思うんですね。例えば、ハロウィンパレードパーティーだったら、パレードするんだって

うふうに思うと思うんです。その辺のやっぱり聞いた人の感じ方に、もうちょっと敏感にならなきゃいけないんじゃないのかなというふうに思うんですね。花火大会だった花火があるとももちろん分かりますし、福岡のほうでは、パンのお祭りじゃなくて、その中のカレーパンに特化したお祭りとかもやっているとすごく集客があるんですよ。やはりそれだけで、やはり何をするか分かるからそれを目的に来るわけですよ。プラスアルファ、そういったパラサイクリングとか、いろいろな企画を準備するのは「行って楽しかったね」となると思います。もちろんさっき小野田まつりもありますけど、小野田まつりっていうだけじゃなかなか初めはそこまで集客はなかったと思います。ただ、その中身が一杯楽しいものがあつたから、続けるに当たって人が増えてきて、すごく大きな祭りになったと思うので、やはりもうちょっと具体的に分かりやすいネーミングをどうするかというなかなか難しい問題ですけど、そういった観点で、やはりそのポスターを作るなり、そういったこともやっぱり訴えかけて、これなんだってすぐ分かるような仕組みっていうのを作っていただきたいなという思いです。意見です。お願いします。

河野朋子分科会長 来年度の参考にしてください。

笹木慶之委員 今頃になって、改めて聞くのは変な話なんですけど、先ほど聞いてちょっと私も驚いたんですけど、実はこの祭りが終わった後、私の関係者30人ほどおりましたけど、はっきり聞いたんですよ。誰一人褒めなかった。1人も褒めた人がいなかったということなんです。厚狭地区だからかなと思ったんですが、年齢が40歳から65歳ぐらいまでの人でした。ところが、それは、外れてないんですよ。当たってるんですよ。これ見たら、ターゲットは市内の若者じゃないですか。これ全部若者。いわゆる後継者を作るとか、メイン事業について皆そうなる。これ、だから彼ら彼女たちに魅力がなかった、引き受けられなかったということなんです。だから私が耳を疑ったのは間違いじゃなかったと今分かったんですが、これは普通の場合、例えば祭りの定義というのは、老若

男女老いも若きもみんなこぞって祭りに行きましようというのは、昔からの祭りの、定着した祭りの在り方なんですよね。ふと昔のことを思い出したんですが、人の輪、まちの輪、祭りの輪といういわゆる輪を作っていこうと。そしてみんなで力を合わせてこのまちを元気にしていこうというようなことをやったことを思い出しましたが、問題は、これを否定するわけじゃありません。これはこれとして、事業化されるわけだけど、やっぱり今、高齢化社会でしょう。お年寄りの力も、若い人も大事だけれども、まちの先輩がまちの後輩にものを伝えるということが、私はもっと強い力があると思うんですよ。それが地域力じゃないかな。そこにシビックプライドが芽生えるものだと。だから、いきなり天から降ってきたものではなしに、やっぱそういったものも何かやっぱりつなげていかないとね。そこに何かこう、物忘れしたような気持ちが残ってしまう。だから私も当日、ほかのことがあって、二つの行事をこなして会場に行きました。行って見て、ちょっと驚いたんですがね、もっと多いと思っていたら少なかったんですよね。そういったことの中で、今言ったような反省をしてみたんだけど、やっぱりこれだけの予算を使ってやるということは、やっぱりその辺りの考え方をもう少し、私は整理したほうがいいんじゃないかなと思いますけど、副市長いかがですか、どう思われますか。

古川副市長 おっしゃられたのは、昔、小野田まつりっていうのを山陽小野田市ではやっておりました。ここにいらっしゃる長谷川委員も役所に入られたときは、最初に小野田まつりを担当されたと思います。私も入ってすぐ小野田まつりを担当して、これ商工会議所の産業まつりからスタートしておまして、会議所と市がタイアップする中で、皆さんが参加するという。そういう中で、先ほど山田委員がおっしゃいましたように、議会も参画するようなまた、観光協会も主催ということで4者ぐらいの主催でやっておったと思います。それが、やはり、保育園児から、昔は、商店街とかがあったんですが、そういうのもこぞって、しゃぎりパレードをしておった。そうした中で、山陽町と小野田市が合併して、それが

山陽小野田市民まつりという形になった時点から少し雲行きがおかしくなったというふうに歴史的には見ておりました、やはりまつりは、基本的に自然発生的な宗教と言うたら失礼ですけど、やはり神社を中心にしたりと、やはり地域の集まりから発展をしたりしていくものが祭りだろうと思いますので、市民まつりを行政が主体となって、全市民を巻き込んだまつりを行政が主体となってやるというのは、もう少し時代が違うのかなと。先ほど笹木委員がおっしゃいましたように地域のコミュニティーということになりますと、今回の代表質問でもいろいろありましたように地域運営組織とか、そういう中で動いていって、そこで、いろんなまちづくりをしていただけたらと。その中に行政もいろいろ参画していくという形になろうかと思えます。今回のハロウィンイベントというのは、全市的な祭りというよりちょっと若者をターゲットにして、ちょっと角度を変えて、祭りとかイベントをして、情報発信をしようじゃないかというような着眼点で行ったところでごさいます、皆さん方がおっしゃっておりますような山陽小野田市民まつりの復活というようなどころではないというのは少し御理解をいただきたいと思えます。そうした中で、山陽地区のほうはまつり山陽とか秋まつりとか、寝太郎まつりとかずっと残っております。そういうような祭りはそういう祭りで、伝統を重んじてやっていく必要があると。そうした中で、行政がお手伝いできることは、手伝っていきたいと思えますし、今回のハロウィンの祭りは少し角度を変えて若者をターゲットにする、若者へ情報発信したいということで、ちょっとやった中で市民の皆様方から、少しいろんな意見も頂いたということで、また来年度につきましてはその御意見を参考にする中で、少し考えていきたいというふうに考えます。

笹木慶之委員　なお、付け加えておきますが、私の思いですからね、違うかもしれないから、やっぱり市の良さを外に売ろうとすると中の人たちがいいと思って中でいいと評価しないと、外へいいという評価は出ていかないと思うんですよね。だから、内輪が仲良くすることを外の人が見て、その中に入っていきたいと思う気持ちを誘導するのが私は大事であって、

そうすると若者もいいんですけど、やっぱり時代をつないできた、そういう人たちの中の人の輪をやっぱり誇らしげにしながら、やっぱりよそから、それに交わってもらおうという手法を私はもう少し考慮したほうがいいんじゃないかなと思います。今、副市長のほうから、その思いを言われて一部分かるところがありますけどね。だけど、やっぱり内輪の誇らしさが外に出ていって、それに皆さんが共感してもらえるとこのものを、やはりどんどん出していくべきじゃないかなと思いますので、そういったことも踏まえた対応をひとつお考えいただきたいということ要望として出しておきます。

奥良秀委員 あと青年の団体からの意見なんですが、かなり、そのの団体に対しては、複数の団体なんですけど、予算が少なかったと。もう少しあれば、もっといろんなことができたという後の意見もありましたので、今回またやられるのであれば、そういったいろいろと地元のそういうふうなところがあると思いますので、その辺にはいろいろと活動ができやすい環境を作ってあげて、やはりその人たちも若者なんで、やはり20代30代の方たちなので、そういう人達がやっぱりおもしろくなければ、先ほど笹木委員が言われたとおり、内輪がおもしろくなければ、おもしろさが周りに伝わっていかないと思いますので、その辺も意見としてよろしくお願いします。

河野朋子分科会長 はい、いろいろと初年度の反省を踏まえて、また、来年度、改善がされると思いますので、その辺りたくさん意見が出ましたので、参考にしてください。それでは、次に行っていていいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）11番の事業に行きます。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 それでは、53ページを御覧ください。審査事業11番、若者会議推進事業について御説明します。まず、事業の概要です。スマイルシティの実現に向けて、シティセールスを推進していく上で、若者の視点による本市の魅力発信に係る意見を聴

き、地域振興の諸施策に反映させるために若者会議を設置するものであり、来年度は文化をテーマに意見を聴いていこうとするものであります。次に指標ですが、会議の開催数を掲げ、今年度同様に5回の数値目標を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業等ということで37点の評価となっております。54ページには予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、報償金10万円、保険料3万円。財源としましては、全額一般財源を充当しております。55ページには、事業の内容を記載しております。中段に記載しておりますとおり、会議の構成員は、18歳以上30歳未満の若者で、学生、両商工会議所青年部及び青年会議所の会員、公募委員及び市職員を対象としております。また予算の内訳として、費目ごとの使途や計算式を記載しております。56ページから57ページには、若者会議設置要綱を記載しております。説明は以上です。

河野朋子分科会長 説明が終わりましたので、この事業について質疑を受けません。

山田伸幸委員 かるたとガラスについて話を伺うということなんですけれど、これ若者の皆さんがそういう実体験を踏まえてされるんでしょうか。もう事前に、例えばそういったものを見せるとか、実際にガラス工芸のあるところに行って、見たりしてくるのか。具体的にはどのようなことを考えておられますか。

中村シティセールス課地域政策係長 今年度はスポーツを対象に実施いたしまして、来年度は文化ということで考えておりますけれども、実際に今年度につきましては、やはり会議室で、今まで知っていることを見ていることを基に意見交換するだけではやっぱりちょっとなかなか意見も出ませんし、実際よく知らないっていう方もいらっしゃると思いますので、来年も同じようには考えているんですけれども、今年度を参考に言いますと、実際にレノファの試合に行って、その場で市のPRをしていただ

いたり、パラサイクリングの選手と市民の交流事業に実際に参加していただき、市の職員と一緒に選手と交流したりっていう体験をしていただいた上で、自分がどういうところがいいと思ったからどういうふうにすれば、若者、市内、市外の方の心に響くかっていうところを最終的に意見交換させていただきましたので、来年度につきましても実際に今、実際されていらっしゃるかるた教室であったりとかっていうところの場に参加していただく中で、御意見をお聞きできればなというふうに考えております。

山田伸幸委員 今の説明を聞きながら、これは婚活イベントかなっていうふうなイメージを受け取ってしまったんですけど、やはり若い人たちが、男性女性が一緒になって事業すればそういうふうに、どうしてもイメージしてしまったんですけど、これを実際見られて、今年度についてはレノファの応援に行ったんですかね、結局は。そこで意見を出し合うというふうなことをされたんですが、新年度はだから具体的には先ほど言われたようにかるたの教室に参加すると。それだけでどういった目的が果たされるんでしょうかね。結局、若者会議の設立の目的と合致するのかなのか、その辺がちょっとよく分からないんですが。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 先ほど冒頭にも御説明をいたしましたけれども、シティセールスを推進していく上で、若者の視点による本市の魅力発信に係る意見を聞くと、それを地域振興の諸施策に反映させると。これが、会議を設置した目的ですので、例えばかるたなり、ガラスの体験なりをしてもらう中で、若い人たちの感性で、もっともっとういうふうにしたら、そのガラス文化というものを市民がもっともっと広く実感でき定着していくことができるんじゃないか、地域振興のガラス文化をどんどんと、どういうふうに広めていくかっていう観点でのアイデアも頂きますし、それと加えまして、どういうふうな発信の方法があるのか、どういうふうにすれば、よりとんがった形で情報として発信されていくのかっていうこととか、そういったことも意見を頂く。そ

それを今若い人たちに、実現可能性というのを度外視して意見をくださいというふうに言っていますので、アイデアを頂くというふうな形でしておりますけれども、提案していただいたものの中で幾つか実現できるものがあればしっかりと受け止めて、翌年度、翌々年度の事業に反映させていく。こういうふうなことを考えているところです。

奥良秀委員 スポーツとは何をしたのかっていうことで、私も聞こうと思ったら、レノファとパラサイクリングということで、実際問題、若者会議の中で、レノファとパラサイクリングっていうのが出たんでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 こちらから、スポーツというテーマはお示ししました。それで、今の市の重点プロジェクトとしてやっている中で、レノファ山口との連携ですとか、パラサイクリングのまちづくりっていうか、そういったところをやっておりますので、その二つに関してはこちらにも具体的に提示もしましたし、体験の場も提供したところですが、話合いの内容につきましては、広い意味でスポーツということで、レノファ山口とかパラサイクリングにこだわらず、広くゴルフとか新スポーツということでオートレースとか、そういったところも含めた御意見は頂戴致しておるところです。

奥良秀委員 先ほど来からの説明を聞いてると、もう最初から、要はありきで動かれているのかなという認識がありましたので、また今年度は文化をテーマにして、ガラス、かるたというふうになってるんですが、そうは言っても、右の表の令和2年度は文化っていうところで、ガラス、かるた等ってあるんですけど、じゃあ「等」って何ですか。教えてください。

中村シティセールス課地域政策係長 広く文化ということでテーマを作っておりますけれども、例えば若い方の意見を今から聞く中で、例えば音楽のイベントをやりたいとかっていうようなものが出てくるかなとは思っておりますので、そういった意味で広く文化ということで。市として事業

として、こう大きく推進しているものがかかるたとガラスといったようなものがありますので、それを市がやっているものを改善していく中で、どういった御意見が頂けるかっていうところは、こちらも聞きたいところではあります。決してそれ以外を妨げるものではないということです。

奥良秀委員 妨げることはないでしょうけど、やはり話を進められている流れの中で、やはり市の施策がこういうふうにやられてるんであれば、こういうふうに進められて言わなくちゃいけないんじゃないかなど。これに関して話をしなくちゃいけないんじゃないかなという空気に絶対になるんですよね、ありきに。だから、私としたらガラスに関しては、まだこの他の事業でもありますが、本来若者の人が、ガラスとかるたを言うのかなど。ちょっと想像できないんですよね。それは、今からかるた教室であったりとか、かるたを配って、小・中学校の子供たちに教えるっていうんであれば、小・中学校の子供たちがかるたっていうなら分かるんですけど、若者会議に来られてる人がかるたって本当に挙げて言ってくれるのかなど。ちまたで、要はガラス文化って言われますけど、文化、そんなに長い間ガラス文化があったのかっていうこと自体が、私の年代でもクエスチョンが付くんですよね。だから、本来の若者会議っていう会議ではなくて、あくまでこれは市がやろうと思っている重点施策をどういうふうに売り込んでいけばいいかっていう、ただの要は施策をどういうふうに進めていけばいいかというアンケートをしているような感じに思えるんですが、そうじゃないんでしょうか。本当に要は全市的なものなんじゃないかな。

川地地域振興部長 第二次総合計画の重点プロジェクトで、スポーツに関してはパラサイクリング、サッカーで、文化に関してはかるた、ガラスの文化というふうに、これはもう単語を挙げております。本市としても、これに当面注力してやるべきで行政としても考えていきますけども、若者としても先ほどガラス文化が本当に浸透しているのかということも、実際にどのような感覚でおられるのかっていうのを聞いてみたいですし、

どのようにしたら浸透していくかというのを聞いてみたい。さらには、先ほどありましたけど、その四つに絞るのかということとそれ以外にも私どもも聞きたいですし、先ほどもありましたようにスポーツについては、若者のほうからゴルフ場の関係ですとか、例えば、オートレース場でも本場開催をほとんどしてない中で、すごい有効資源をどのように活用していったらいいのかということも実際出てきておりますので、お互いに聞きたいことを聞きながら、よりよいまちづくりをしていきたいというのがために今回設置いたしておりますので、私どもとしても、少なくとも自分たちがやってきたものを聞きたいですし、さらに若者が、こういうのはどうなのかっていうことをお互いに聞いていきたいというのが本来の趣旨です。

奥良秀委員 是非とも重点施策のゴリ押しというか、押し付けではなく、いろんなものが多分あると思うんですよ。私が知らない皆さんが知らない本当に皆さん、若者がやりたいこと、好きなことがあると思うんでその辺の吸い上げをきちんとしていただきたいと思いますし、できれば、私も若者が、自分は若いと思っているんですけど、若者が何を話されているのか、是非とも情報として教えていただきたいと思いますので、会議録とかそういったものがあれば、公開していただけるようによろしく願います。これ意見です。

中岡英二委員 若者会議の、今、奥委員が言われたように、ガラスとかるた。関心のない方が集まった場合、やはりこの若者会議の中でオブザーバーとして、そういうガラス、かるたに精通した方を何人か入れるというお考えはありますか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 あくまでも若者会議の構成員として若者っていうふうな形になっておりますので、むしろそれが今、そういうガラスとかかるたになじみがない人だけであっても構わないと思うんです。あとはそういう人たちだけで会議をするのではなくて、先ほど

申しましたように、いろんな場所に連れて行って実際に体験してもらってということがあります。その中で、専門家の方というか、詳しい方からいろいろお話を聞いたり、その方の指導を受けながら体験したりというふうなものの中で理解していくものだと考えております。

伊場勇副分科会長 この若者会議、やり方によっては、今、少人数で20人以下ぐらいかなと思うんですけど、やり方によってはそれがどんどん広まって行って、いろんな気運が生まれてくる可能性も秘めていると思うんですね。その中で、やはり出られた若者の方に意見を聞くと、それなりに楽しかったですよっていう、楽しかったら良かったねというか、ただそこで終わっちゃうと勿体ないなって思うんですね。2か月に1回、5回やると言いましたけど、なかなか2か月に1回だと協議の内容もちょっと忘れちゃうんじゃないのかなあとかも思っていますし、やはり1年通してこれをやる中で、何かこう達成感というものが若者にもしあれば、このせっかくやる事業を波及していく思いとか考えとかが広がっていくんじゃないのかなと思うんです。イベントとするのか、例えば議会に対しての要望書になるのか、それはちょっと分かりませんが、何かこの成果物のようなものっていうのもひとつ必要じゃないかなと思いますが、その辺いかがですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 一応この若者会議につきましては年度単位で活動を考えておまして、今年度につきましても、もうすぐ提案書といいますか、そういったものが取りまとまりますので、若者会議のメンバーから市長のほうに提案していただいて、意見交換もしていただくという場を作ろうかなと思っておりますし、やはりその達成感ということ言えば、出した意見が何らかの形で具現化されて初めて達成感かなと思っております。ちょっと先ほど言いましたけれども、実現可能性を考えずに意見出してくださいと言ってますので、なかなかちょっとおもしろいけどねっていうのも、あるにはあります。ただ、出された意見は真摯に受け止めながら、少しでも実現に向けて努力していくと。

その中で、あなたの意見が形になったよというふうなことがあれば、より参加してよかったとと思っていただけるようになると思いますので、その辺りはしっかりと出された提案をどのように生かしていくのかというところで考えていきたいと思います。

山田伸幸委員 取りまとめというのは、会議のメンバーの方がされるのか、それとも事務局のほうでやるのか。いかがでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 今年度につきましては、委員から頂いた意見を事務局のほうで案として取りまとめて、委員にそれを見ていただいて、修正等した上で最終案とするということで進めております。

山田伸幸委員 事務局が意見を誘導することのないようにしていただきたいと思います。それともう1点、55ページの事業の概要、構成員、開催回数、予算の内訳というところを見ていて、先ほどの委員会の審議の中で、委員の報酬が4,000円というのが決まってるんですけど、これ、2,000円となっているのはどちらですか。これはもう2,000円のままですか。

川地地域振興部長 附属機関の報酬が4,000円ですので、これは附属機関ではなく報償という形で出しますので、従来どおりの2,000円になっております。

笹木慶之委員 私のほうからもお願いしますが、若者会議、大いにやっていただきたいと思います。ただ、ガラスとか何とか、これ入り口の問題であってそれに限定しないということですから、やっぱり広く文化・スポーツの振興、それから市の魅力発信の手法をやっぱり積極的に聞いて、まとめるのはどこでもいいですから、まとめられて、そのまとまったものをやっぱり我々に見せていただきたいと思います。我々もやっぱり参考としながら、やっぱり違った提案をしていきたいなと思ってますので、

大いに若者の意見を吸い上げてやってほしいということを申し上げておきたいと思います。

河野朋子分科会長 意見ということでいいですかね。ほかにここで質疑はよろしいですか。次の14番、15番の説明を続けてお願いします。できるるところまで、途中でもいいです。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 67ページを御覧ください。審査事業14番、観光プロモーション事業について御説明します。まず、事業の概要です。観光誘客の促進を図るため、ターゲットに応じた様々な媒体を活用し、効果的な情報発信を行うものです。次に指標ですが、来年度については、今年度作成したパンフレットやPR動画を活用した情報発信事業を実施するという活動指標を設定しております。下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業等ということで37点の評価となっております。68ページには、予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、広告料200万円。財源としましては、地方創生推進交付金100万円、一般財源100万円を充当しております。69ページには、事業の内容を記載しております。発信エリアは、県内及び北部九州を中心とし、広告媒体は、テレビCMやインターネット広告、観光旅行関係雑誌等を業者提案の効果的なメディアミックスで実施する予定としております。次に、71ページを御覧ください。審査事業15番、おもてなしサポーター育成事業について御説明します。まず、事業の概要です。市内の観光関係事業者、団体等を対象に市の観光資源の知識、観光案内のノウハウを教授した上でおもてなしサポーターに登録し、それらの事業所を訪れた人に観光案内や情報を発信できるようにするものです。次に指標ですが、これまで同様、研修会の開催及びサポーター登録者数を掲げており、それぞれ目標値を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については…

河野朋子分科会長 ちょっと途中ですが、申し訳ないです。本日3月11日で

東日本大震災の発生から9年となります。この震災によって犠牲となりました全ての方に対して哀悼の意を表すべく、これから1分間の黙祷を捧げたいと思いますので、御起立をお願いします。

(出席者全員起立、黙とう)

河野朋子分科会長 それでは、続きをお願いします。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 引き続き、71ページになります。

下の妥当性、有効性、効率性については、ホスピタリティの向上が現行の観光振興ビジョンにも明記されていること等から、33点の評価となっています。72ページには、予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、講師謝礼20,000円、消耗品費80,000円。財源としましては、全額一般財源を充当しております。73ページには、平成30年度の事務事業評価シートを掲載しております。指標としているサポーター登録者数の実績値が目標値に届いていないことから、目標達成度は「C」となっております。課題としましては、登録の要件となっている市主催研修の受講という部分を緩和するなど、ルールを見直すことも必要かと考えており、今後の方向性は、コスト投入を現状維持にとどめつつ、成果の拡充を図るとしてしております。74ページには、これまでの登録事業者の名簿を掲載しておりますので御確認ください。説明は以上です。

河野朋子分科会長 それでは説明を受けましたので、質疑のところまでして、休憩しますので質疑を続けます。質疑はありますか。14、15の事業について、先ほど観光のところでもちょっとありましたけどね。

山田伸幸委員 観光プロモーションということで例のビデオ放映を先ほど評価したんですけど、これについて何らかの反響等はあったでしょうか。

原野シティセールス課観光振興係長 今の評価していただきました動画の件なんですけれども、CMとかですねユーチューブ等で今、皆さん見ていただいております、実際に見られた場所、例えばくぐり岩とかですね、こちらの方とかも行ってみたいので場所を教えてほしいという問合せとかも頂いておりますし、今の山田委員が言われてましたように、本当に動画がすごい良くできているので、また今後もいろんなものを展開してくださいってというような応援のメッセージ等も頂いております。

伊場勇副分科会長 そのCMとかに流れているカメラ旅ですかね、3名の女性が出られていますけど、3名の女性はこういった方なんでしょうか。教えてください。

原野シティセールス課観光振興係長 今、カメラガールズという、そういうカメラを好きな女性が、本当に一眼レフカメラを持って、いろんな好きどころに行って、インスタ映えするような写真を撮って回るような旅をするのが好きな女性の方が集まるコミュニティーになるんですけれども、こちらを実際うちのそういった写真映えするような施設であるとか、食とか、それから体験するような施設を、そういったストーリーで御紹介するような動画にしたらどうかっていうことを、先ほど動画の受託者でありますY A Bから御提案いただきまして、そういった方を起用するようになったのが経緯です。実際来られた3名の方は、カメラガールズのほうから選抜された方として、たしか御出身は福岡と広島と関西のほうだったと思います。（「市民じゃなかった」と発言する者あり）

河野朋子分科会長 なるほど、それが知りたかった。

山田伸幸委員 観光プロモーションというわけではないんですが、やはり私も写真を使って情報発信をしておりますと、時折、問合せが入ります。特にヒメボタルシーズンについて、これは毎日私、情報を発信しておりますので、いろんな方が問合せをされますし、山の中で私を見つけられて、

撮影ポイントを教えてくださいとか撮影の仕方を教えてくださいとかです
ね、そういうのがあって、やはりかなり広く、知られてくるようになりました。
ちなみに、昨年私が一緒に歩いた方の中では長崎、それから広島、以前は、東京の
プロカメラマンの方を案内したこともあります。相当注目されるスポットなん
ですね。それ以外にも、花の海なんかに行っても、特に夕方を好んでおられ
るんですね、カメラマンは。なぜかという、人が少なくなっている。それと夕
日とのコラボレーションを考えているということがありまして、そこで臨時の
撮影会みたいになって、たまたまおられた鑑賞客の方をモデルにして、撮影
会になったりするということもあるんです。そういったように、せっかくあるそ
の優れた観光スポットをいかして、是非もっともっといかすような手段が必
要ではないかなと、自然発生的なものもいいんですが、やはり私的な努力も必
要ではないかなと。昨年から突如のように、くぐり岩が注目をされてきて、
たくさんカメラマンが押し寄せているんですが、一度だけ出会ったんです
けど、駐車場から下りていくところに市の職員の方が立っておられて、何
してるんですかって聞いたら、朝からここに立って、来客数を数えていると。
ちょうど夕方でしたけど66人目だというふうに言われました。そんなのを
ただ数えているだけじゃなくて、そこにせっかく案内板等があるので、いろん
な案内をしたりとか、何時から何時ぐらいまでは安全な時間ですよとかです
ね、そういった、その日ごとによって、やっぱり案内するやり方が変わって
くると思いますので、そういった来られる方へのサービス、そういったものも
必要ではないかなと思うんですよ。特にプロカメラマンなんかに来ていただ
いて、その撮影会とかもやって、いろんな方に来ていただく。そういったこ
とも必要ではないかなと思うんですけど、またそれを一緒に横から撮影をし
て、それをまた別の媒体で流すということもできると思うんですよ。そうい
った努力と工夫によって、もっともっとたくさんの方が山陽小野田市ファン
になっていただけるんじゃないかと。せっかくいい媒体がありますので、そ
れを是非利用していくべきではないかなと、かねがね思ってるんですが、い
かがでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長　たくさんのアイデアを頂きましてありがとうございます。全くまだまだその現地でのサービスであったり、ソフト事業といいますか、そういったものが足りないなということは実感しております。これはまた改めて、今年度に作成しております観光のプランのほうでも記載しているところですけども、やはりそういったソフトを充実させていかなければいけないということは、共通認識を持っております。ただ一方でやはりマンパワーの部分でどうしても弱い部分があります。御承知のとおり、市の職員が観光協会の事務局も兼ねてやっているという状況の中で、市あるいは観光協会でどうこうというのは限界がありますので、そこはスマイルプランナーという形にもなると思いますけれども、いろんな方々の御協力を頂きながら、そういう現地でのおもてなしなりソフト事業なりの展開を構築していくことができたらと考えております。ますます今からそういったスマイルプランナーをはじめとした方々とのネットワークで、そういう対応をしていくことができたらと考えております。

中岡英二委員　これは参考にしていただきたいんですが、私はユーチューブを見るのが好きで、特にこの度できている旅グルメ、窯業、まち並み風景、これは1分前後でいいねの回数も280から200件。それに比べて4分間の長編の動画は842件。ちなみにくぐり岩も843件と、いいねの回数が多いです。これから見ると、せっかくいいもの作っておられると思うんですがもう少し長時間というか1分程度ではやはりいいねが少ないです。やはり4分ぐらいあれば、経費の問題もあると思いますけど、かなりのかなりのいいねが付いていますので、その辺、時間を含めて内容ももう一度検討されたらどうかなと思います。私の要望ですね。

伊場勇副分科会長　カメラガールズもいいと思うんですけど、本市の人がもっとしっかり出るといふか、そういった動画は、もちろんその中には出演されていますけど、お酒を作っているところとか。ですが、看板娘のよ

うな本市の人も出るっていうところはどうか考えられていますか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 先ほどもお話ししました民間の専門業者さんをお願いしてお金を掛けて作るというものじゃなくて、職員の手作りでもというものの延長にもなるかもしれませんが、この度の来年度のハロウィンに向けてということでもお話ししました市民が撮る、あるいは市民が登場するというふうな映像を、当日映していてもおもしろいんじゃないかというものも今考えておりますので、そういったものをハロウィンの事業だけにとどまらずに、それをユーチューブなんかどんどんアップしていくということもあろうかと思っておりますし、もっともっとその市民自ら市の魅力発信していくというものの楽しみなり意義なりを感じてもらえるような人が増えていくことが大事だと思っておりますので、その辺をハロウィンを始めとしたいろんな事業を通じてそういった気持ちを奮い立たせる形にもっていききたいなどは思っております。

山田伸幸委員 これもまた一つのアイデアですが、入ったばかりの職員にゴープロを持っていただいて、3人ぐらいで市内の観光箇所に行って、2分か3分ぐらい歩いてもらって、必ず若い人であれば、感動もより大きな声も上がってくると思いますし、私たち年の者が見るのとは違った喜びの表現の仕方があろうかと思うんですね。それを集めて、プロモーションビデオができるように私は思うんですよ。だから本当にその辺でいうと、もっともっとたくさんの良いところがありますので、発掘をして金を掛けずに、ゴープロというすばらしいものがありますので、そういったものを活用すればおもしろいんじゃないかなと思います。特に市内には、今出ているくぐり岩と花の海だけでなく、恐らく、山口県で一番大きい紅葉の木というのが鴨神社にあります。その鴨神社には紅葉の木だけでなく、羽子板の玉になるムクロジの木の巨木もありますし、そういったものを是非紹介して出す。動画で出すというのが今一番のはやりですので、やられたらどうかなと思います。いろんなところに、いろんな

これはというのがありますので、それを是非。それとか地域の中で先日やられた百万遍念仏も行って、それを取材してくるとかということもあっていいんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 参考にさせていただきたいと思っております。市の魅力をしっかりと認識して、そして発信していくというものの取組の一環として、例えば新規採用職員にやらせるとか、すごくいいアイデアだと思います。あとは、あまたある動画の中で、本当に見てもらえるものができるかどうかというのはありますので、いいねの数を増やそうと思えば、なかなか専門性とかいろいろ必要なのかもしれませんが、まずはやってみるという習慣づけといいますか、そういったものには大いに役立つものだと思いますので、参考にさせていただきたいと思います。

山田伸幸委員 そのためには、数を打てば当たる。数が必要であります。以上です。

奥良秀委員 71ページのおもてなしサポート育成事業ですが、実際にこういう制度を作られて平成29年から令和元年までこういうふうな事業所が入られてという話なんですけど、おもてなしサポーター事業を受けられて、どういった成果というか、アンケート的なもの、課題的なものというのとは何か吸い上げというか、そういったことはされているのでしょうか。

原野シティセールス課観光振興係長 まず、実際におもてなしサポーターになっていただきまして、取組の状況は、特にやはりたくさん案内を御紹介されているところもあれば、なかなか行かれる方が少なくてパンフレットを設置していただいております、来訪者が来られたときに渡されているということもあるんですけども、特に熱心というか頻繁に取り組んでいただいている事業所につきましては、向こうから、新しいパンフレットができたらないですかとか、こういったパンフレットが欲しいとか

と言ってうちに取りに来られたりお問合せをしていただくこともありますし、各事業所のホームページでも季節の花だよりとかくぐり岩の状況、それからこういった夕日の写真を撮れますよというような御紹介もされているところもありますし、来られた方を実際にくぐり岩の道案内をされているところもあって、皆さん本当に取り組んでいただいて効果が出ていると思っております。課題につきましては、やはり昨年、事業者の皆さんにアンケートを実施いたしまして、中にはそういった双方でのまだ情報交換がなかなかできていないとか、活躍の場がなかなかないという事業者も中にはいらっしゃる場所ですので、今後も実際研修会を重ねていく中で、お互いのフォローアップもしながら、連携を密に取ってよりよいものにできるように努めてまいりたいなと思っております。

奥良秀委員 一つ提案なんですけど、大体3年間やられてみて、どういう分野のところでおもてなしサポーター制度が活用できるかなという事業体が見えてきているのかなとは思っていますよ。それで、事業体というのは山陽小野田市の中にどのぐらいあるかという洗い出しはすぐできると思うんですよね。そういったところに、逆にこちらからこういうサポーター制度があるんですけどどうでしょうかということをお願いに回られて増やしていかれたほうが、今度はもっと効率的になってくるのかなと思いますので、正確にデータがあるようなことを言われてましたので、それを活用していただきたいと思います。

山田伸幸委員 おもてなしサポーターには登録をしておりますが、長谷川議員も中岡議員も私も大井議員もヒメボタルシーズンの通行止めときにはあそこに立って、ヒメボタル観賞者の案内をするということをやっております。実際に連れて歩くのは2人しかおりませんが、いろんな場面でいろんな方が自分の得意分野で活躍できる場があると思うんです。その辺を掘り起こしていくことが私は今必要ではないかなと思っております。せっかく長谷川議員とか中岡議員が活躍しておられますので、

一言言わせていただきました。

河野朋子分科会長 いいですか。紹介したということで。「はい」と呼ぶ者あり）ほかに質問はいいですか。それでは、ここで10分間休憩をいたしたいと思います。10分休憩してまた再開します。

午後3時6分 休憩

午後3時15分 再開

河野朋子分科会長 それでは、分科会を再開します。審査番号②の審査事業[16]番と[17]番の説明をよろしくお願いします。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 75ページを御覧ください。審査事業[16]番、県央連携事業（広域プロモーション等）について御説明します。まず、事業の概要です。県央連携都市圏域を構成する7市町全体を会場に見立てて、2021年に開催する「山口ゆめ回廊博覧会」に向けて、その準備やプレ博覧会を開催しようとするものであります。次の審査事業[17]番、県央連携事業（山口ゆめ回廊博覧会市主体事業）との両輪となっており、当事業は7市町が共同で組織した博覧会実行委員会が実施主体となる事業を中心としております。次に指標ですが、当博覧会は海外からの観光客の誘客も見込んでいることから、地域通訳案内士育成人数や観光客数等3つの指標を掲げ、それぞれ目標値を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業であり、また県央連携都市圏域ビジョンに基づく事業でもあることから35点の評価となっております。76ページには、予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、山口県央連携都市圏域事業負担金145万9,000円、普通旅費10万円、消耗品費10万円。財源としましては、地方創生推進交付金72万9,000円、一般財源93万円を充当しております。77ページには、山口ゆめ回廊博覧会事業の概

要を記載しております。方向性としては、博覧会の効果を各地域に波及させるため、各市町に主会場を置き、周遊を促進するオープンエリア型博覧会として開催する等としております。会期は、来年度のプレ博覧会が7月1日から半年間、再来年度の博覧会が令和3年の7月1日から半年間となっております。下段の部分は、主に審査対象事業17番の説明になりますが、各市町の主体事業として、主会場を設置し、集客力のあるイベントを開催することや地域資源を活用したゆめ散歩という体験プログラム等を実施することとしております。また、78ページには、実行委員会が実施主体となつて行う事業の詳細を記載しております。企画運営や広報宣伝、重点プログラム実施事業等で令和2年度の総事業費は、1億3,435万円となっております。このうち当市の負担については、重点プログラム実施事業の地域通訳案内士育成とゆめ散歩の外部人材を活用した造成支援、周遊プログラム実施事業の周遊実証イベントの実施に係る145万9,000円となります。次に、79ページを御覧ください。審査事業17番、県央連携事業（山口ゆめ回廊博覧会市主体事業）について御説明します。当事業は、事務事業名に①から④までの番号を付している4つの細事業から構成しておりますので、これらを一括して御説明します。まず、①の事業の概要です。当事業は、山口ゆめ回廊博覧会の関連事業のうち、各市町が主体となつて実施するもので、当市におきましては、主会場イベントとして、ガラスアートフェスの実施と、ゆめ散歩として、ガラス、書道、かるた、まち歩き等の体験プログラムの造成を予定しております。次に指標ですが、事業内容を反映して、市町主体事業の開催、体験プログラムの造成・実施及び市の観光客数の3つを掲げ、それぞれ目標値を定めております。下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業であり、また県央連携都市圏域ビジョンに基づく事業でもあることから35点の評価となっております。80ページには、予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、市の担当部局及び観光協会、文化協会で組織する実行委員会への負担金200万円。財源としましては、地方創生推進交付金100万円、一般財源100万円を充当しております。

長井文化振興課長 引き続きまして、②から④までの事業について順に御説明します。81ページを御覧ください。まず市主体事業②の事業概要です。当事業では、令和2年7月から始まるプレ博覧会のプログラムの一つとして、市内の公共施設10か所に、市保有のガラス作品を展示し、それらを巡るスタンプラリーの開催を予定しております。このため、ガラス作品をより魅力的に見せるための展示台を購入し、多くの来場者が見込まれる山口ゆめ回廊博覧会を、本市のガラス文化を発信する絶好の機会と位置づけ、ガラス作品の美しさや迫力を堪能していただくことで、ガラスのまち山陽小野田を知っていただき、本市の知名度アップにつながるよう計画しております。このスタンプラリー会場に作品を展示する10台の展示台を購入予定としております。指標につきましては、事業の開催回数を掲げております。妥当性、有効性、効率性につきましては、重点プロジェクト該当事業であり、また県央連携都市圏域ビジョンに基づく事業でもあることから、35点の評価となっております。82ページには、予算を記載しておりますが、支出の内訳は展示台購入費用として、庁用器具費955万円、重要物品に賦課する保険料1,000円を計上しております。財源としましては地方創生推進交付金477万5,000円、一般財源477万6,000円を充当しております。続きまして83ページを御覧ください。市主体事業③の事業について御説明します。当事業は、山口ゆめ回廊博覧会期間中には、きららガラス未来館にも多くの来館者が見込まれることから、現在きららガラス未来館の入り口に設置している案内版は、デザイン性を重視する余り、来館者には分かりづらいため、県道から未来館への出入り口が分かりやすいように、資料の89ページ右下に掲載しております幅90センチ、高さ3メートルの視認性をより重視した看板の設置を予定しております。指標については看板の設置数を掲げております。妥当性、有効性、効率性については、誰でも利用可能な、市が設置した施設を周知する事業であることから、33点の評価となっております。84ページに予算を記載しておりますが、支出の内訳は、看板設置委託料102万3,000円を

計上しており、財源は地方創生推進交付金 5 1 万 1, 0 0 0 円、一般財源 5 1 万 2, 0 0 0 円を充当しております。続いて 8 5 ページを御覧ください。市主体事業④の事業について御説明します。ガラス文化推進事業は、出張体験教室の開催とガラス作品展覧会の開催となっておりますが、県央連携事業に該当する事業は、ガラス作品展覧会の開催のため、そちらについて御説明させていただきます。山口ゆめ回廊博覧会市主体事業、ガラスアートフェスの P R 及び本市のガラス文化発信を兼ねて、令和 3 年 1 月 1 9 日から 4 日間、東京都台東区にある上野の森美術館のギャラリーをお借りして、本市が保有する竹内傳治氏の作品や、第 8 回までの現代ガラス展大賞作品等を展示する展覧会を計画しております。本市の特色であるガラス文化の魅力を人口の多い都市圏で発信することで、ガラスアートフェスへの集客につなげ、また画像媒体として本市のファンを増やすことは、本市の知名度アップにつながる絶好の機会であると捉えております。活動指標については展覧会の開催日数を掲げております。妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業であり、また県央連携都市圏域ビジョンに基づく事業でもあることから、3 5 点の評価となっております。8 6 ページに予算を記載しておりますが、事業全体の経費 3 6 8 万 1, 0 0 0 円のうち、県央事業関連経費は 3 3 2 万 3, 0 0 0 円です。内訳は、作品展示指導料として報奨金 1 0 万円、展覧会打合せや展覧会期中の職員出張旅費 5 9 万 7, 0 0 0 円、作品の輸送や搬出、搬入等の業務委託料 1 5 6 万 9, 0 0 0 円、広報費用として広告料 5 5 万円、会場借上料や消耗品等として 5 0 万 7, 0 0 0 円を計上しており、財源は地方創生推進交付金 1 3 6 万 2, 0 0 0 円、一般財源 1 9 6 万 1, 0 0 0 円を充当しております。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 8 7 ページには、審査対象事業 17 番の①から④までの事業の一覧と総事業費を記載しております。8 8 ページには、山口ゆめ回廊博覧会関連事業の一覧を記載しております。一番上の 7 市町事業としておりますのが、審査事業 16 番の事業、その下の白抜きの①から④まで番号を付しているものが、審査事業 17 番の事

業となります。なお、一番下の現代ガラス展に関しましては、県央連携事業とは別枠としておりますが、ガラスアートフェスの目玉事業となるものであることから、併せて記載しております。90ページには、①の市主体事業（シティセールス課分）の内容を記載しております。大きく3つで構成しており、上段にあるのは、期間中常時開催するガラス作品スタンプラリー、下段にあるのは、体験プログラムのゆめ散歩で、かるたに関する体験プログラムを予定しております。この両者に係る経費として、200万円を計上しております。なお、中段にあるのは、ガラスアートフェスの目玉となります事業で、令和2年度は現代ガラス展を、令和3年度は日本ガラス工芸協会が主催する日本のガラス展の巡回展を中四国・九州地方で初開催する予定です。

河野朋子分科会長 説明が終わりましたので、委員からの質疑を受けたいと思います。16番と17番の事業について質疑を受けます。

山田伸幸委員 最初に、ちょっとどうしても気になったんでお聞きしたいんですが、財源の内訳のことです。これは県央といいつつ、やっぱり山口県内の多くの市町が連携してやるわけで、これは、県は負担しないんですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 こちらはあくまでも県央の7市町の連携事業ということですので、県からはございません。

笹木慶之委員 78ページの博覧会実行委員会の予算の推移というのがありますが、この表の上が全く読めませんが、山口市、宇部市は推測が付きますけど、あとは分かんませんが、ちょっと左から教えてください。一番左側から全部見れないんですよ、上が。令和2年の下から。

原野シティセールス課観光振興係長 実行委員会予算の一番左の縦長に書いております黒に白抜きの部分ですが、縦に書いておりますのが、実行委員

会予算全体を指しております。上に行きまして、順番に共通経費と書いてある部分の上、こちら区分です。その右は事業名です。各事業名になります。続きまして事業内容で、コンダクター、それから実行委員会開催経費と書いているところです。黒く太枠になって囲っておるところが、R2予算額です。続きまして、山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、最後が津和野町になります。以上です。

山田伸幸委員 同じくよく分からないので教えていただきたいんですが、77ページの下側の枠の中の山陽小野田市の横の何ですか、写真。何ですか。

河野朋子分科会長 写真ですか。(発言する者あり)

原野シティセールス課観光振興係長 印刷が見にくくて大変申し訳ございません。ガラスの吹きガラス体験をしている様子だと思います。

奥良秀委員 78ページの予算の推移のところなんですが、やはり山口、宇部がかなりの金額になってまして、やはりメインはこの二つにどうしても見えてくるのかなと。いかに、じゃあ山陽小野田市が呼んでいけるかというところなんですが、何か方策をお持ちでしょうか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 そもそもとして、この県央の7市町は、山陽小野田市を除いては、やはりもう以前から観光にかなり力を入れ、またその名所旧跡も豊富にあるところとして、しっかりとまた予算も掛けながらやってらっしゃるところです。その中で山陽小野田市が入って、どこまで存在感を発揮できるかというふうなところなんですが、タイミングも良く、来年度は現代ガラス展があるということからもガラスアートフェスというのをやっていこうということにしております。どこまでそこが耳目を引くような取組になるのかというのは、これからしっかりと考えていかなければいけないんですけれども、その一つの目玉商品として令和3年には、中四国・九州エリアで初の巡回展を誘致する

というものがありますので、こういったものもしっかりとアピールポイントとして訴えていきたいと考えております。

奥良秀委員 是非ともその7市町の中で、大きいところはあるんですが、頑張っていて光るようにしていただきたいと思います。今度は81ページの専用展示ケースの件なんですけど、10か所、10個買われるということなんですけど、これ、そのプレと本番と終わった後の活用方法はどいうふうにお考えでしょうか。

長井文化振興課長 プレ、博覧会が終わりましても、今も市内の公共施設にガラス作品を展示しておりますけれども、今持っている展示台よりも少しガラスが魅力的に見えるものを購入しようと思っておりますので、引き続き、市民の皆様目に触れるように展示を続けていきたいと考えております。

奥良秀委員 市所有のガラス作品っていう文言があるんですが、これはどのぐらいのものがあって、どのぐらいの価値があるものなのかっていうのは。やはり作品を展示されるっていうことであれば、どいうふうな価値があるのかなと。

長井文化振興課長 保有作品は70点程度、竹内先生の作品と第7回までの大賞作品等で市が保有しております。価値と言われるとなかなか値段を鑑定していただいたこともありませんので、現代ガラス展に出された作品につきましては、出品される際応募される際に、作家さん御本人が、費用等も考慮して、このぐらいの価値があるであろうという金額は頂いております。竹内先生の作品については、今、保険を加入するときを目安にしておりますのは、先生が付けられた販売価格を基に保険を掛けておりますので、その販売価格が参考になるかと思っております。

奥良秀委員 なぜ、点数とか金額を聞いたかというのと、やはり、これだけの数

があるっていうことは、もしかしたら紛失すると大変なことになりますよね。だからその辺、やはりきちんと帳簿等、多分つけられていると思うんですが、きちんとした管理をしていただきたいためにちょっと聞きました。

川地地域振興部長 補足説明です。78ページの事業費の予算の件ですけど、山口市と宇部市が、これ非常に経費が高く見積もってありますが、これは実はこの実行委員会だけの予算で、今6,100万円掛かって、実は山口市さんと宇部市さんで、全体の8割を負担していただいています。これはなぜかと言いますと、広域連携の関係は、中心市が山口市と宇部市となりまして、この2市が大体、市の人口割りで2億円ぐらい普通交付税が入ってきます。私どもこの津和野町を入れて5市町は、特別交付税で、1,500万円ぐらいの支援しかありませんので、こういった全体に関わる事業に関しては、中心市である山口市と宇部市がかなりの費用を持っていただいて、あとは人口割で応分の負担をしようという形になっておりますので、この全体の共通の予算に関してはそういった意味ですので、御理解いただいて。あとは、令和2年度と3年度で各市町がいろんな施策するのについては、それはそれなりの自分たちの予算の中で、交付金を使いながらやっていくという形になっているので、そうやっておりますので御理解いただければと思います。

奥良秀委員 言われる意味はもう、大体、山口市と宇部市が核になってっていうのは分かるんですが、やはりイベントをみんなでやられるのであれば、やっぱり少しでも山陽小野田市が多いほうがいいじゃないですか。やはりみんなでやっても費用対効果として山陽小野田のほうが多かったよって言われたほうが、やはり魅力が山口市よりも宇部市よりもあったほうが私はいいと思ったので、もっと頑張ってもらいたいという意味で質問させていただきました。

山田伸幸委員 同じく78ページの表で気になったのが、本市の負担が45万

6,000円ですか。この中で重点プログラムの実施事業で、圏域への訪日外国人旅行者の受入れということで、地域通訳案内士育成とWi-Fi等環境整備というのがあります。今いろんな観光地、特に秋吉台周辺に行けば、いろんなところでWi-Fiスポットがありまして、Wi-Fiが使えるんですけど、山陽小野田市では残念ながら、本当にごく限られたところでしかWi-Fiは使えません。外国人を呼び寄せようとするならば、どうしてもそこが必要になってくるわけですが、プログラムを実施することで、本市にもそういうWi-Fiのスポットが幾つか造られるのか、何かその辺どのようになっていますか。

原野シティセールス課観光振興係長　今の重点プログラムの中の訪日外国人旅行者の受入れ拡大の体制整備につきましては、地域通訳案内士とこの記載ではWi-Fi等の環境整備と書いておりますけれども、事務局の山口市のほうに確認したところ、Wi-Fiの設置のほうの方向性ではなくて、SIMカード、実際訪日の方のインバウンドの方が利用されているのが、それで、Wi-FiのルーターやSIMカードのほうがなかなか手ごろで、皆さんの御利用が普及が伸びているということで、こちらのカードのレンタルなり配布なりを検討されていると聞いておりますので、Wi-Fiの設置ということはちょっとなくなりそうだということで、今の現状として聞いております。以上です。

山田伸幸委員　SIMカードがそういうふうな形で使われているのも初めて聞きました、それなら別にWi-Fiの環境がなくても、今の通常の携帯の電波で十分だということになりますよね。それであるなら、この本市ももっと積極的にやっていけば、いろんなところで活用できるんじゃないですか。それは今まで何か導入に向けた研究とかされたんでしょうか。

原野シティセールス課観光振興係長　SIMカードの今までの利用の研究ということですが、今のところ、本市におきましては過去に研究したということは正直ありませんが、この度の県央博覧会の取組を踏まえま

して、その利用状況とか、皆さんの反応とかも見ながら、今後の検討できたらなと思っております。

山田伸幸委員 Wi-Fiについては、この市庁舎内で導入に向けた何かテストとかやったのを見たんですけど、今後は、SIMカード導入に向けた動きに変わっていくのかなというふうに話を聞きながら、このほうが安上がりになるかなと思うんですけど、外国人に一樣にそれで通用するのかどうなのか。だから、どこそこに行けばSIMカードを貸してもらえますよというような形で案内が今後されていくのでしょうか。そういうことであれば、いかがですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 私どもも、この度の県央の博覧会事業の中で、初めてそのWi-Fiに変わるような形で通信環境を整備する方法としてSIMカードが使えるというのを知ったばかりです。今後それが本当に具体的に、どのような形で運用されていくのかというのももう少し研究をしていく必要があるかなと思っております。今また5G うんぬんかんぬんという話もある中で、携帯のキャリアも無制限でどんどん一定の価格で通信ができるという環境を整えられたり、サービスも加えられたりしています。そういうふうな状況も踏まえて、どのような形で通信環境をより円滑なものにしていくかというのは、トータルで考えていきたいなと思っております。

山田伸幸委員 それと同じくその表の中で、広報宣伝プロモーション事業ということで、観光パンフレットはゼロ円になってるんですが、公式ガイドブックは4,000万円ですか、投入されるようになっています。これはどういった違いがあるんですかね。ガイドブックと広域のパンフレット、圏域のパンフレットの違いというのは。

原野シティセールス課観光振興係長 公式ガイドブックにつきましては、令和2年度がプレ開催になりますので、そちらの経費ということで認識して

おります。その上段の圏域パンフレット等の作成につきましては、本開催のときに制作されるものと認識しております。

笹木慶之委員 まず山口ゆめ回廊という名前が付いておるんですが、場所がかなり飛んでますよね。山口、宇部、ほかのとは別として、山陽小野田。これの回廊の交通手段というのは、新しい何かを設けられるんですか。それとも勝手に動けという回廊ですか。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 これは、博覧会のコンセプトといえますか、七つの市町、七つの地域が一緒になってそれぞれ多彩な催し物やっぺいこうと、いろんな地域の個性を出したものにしていこうというイメージの中での回廊というふうなこと。七つの地域をそれぞれの地域の個性をしっかりとつないでいきましょうよっていうひとつのデザインですので、具体的にルートなどを整備していくという事業ではありません。

川地地域振興部長 実は、実行委員会の中で、交通機関をどうするのかっていうのは話し合われてます。実際に笹木委員言われますように、この7市町の中で、どのようにして交通機関をやれば、あるいは充実したらより効果が得られて人が来られるのかっていうのは協議いたしておりますので、これはもうちょっとしばらく、この実行委員会の中で、多分協議をされて充実されていくのではないかと考えております。

笹木慶之委員 それで申し上げておきたいのは、宇部は宇部空港があって、ほんと飛んでくれば、これはすぐ出ると。山口は新幹線のさくらが多く止まるようになったということで、非常に出入りしやすいんですよね。ところが、我がまちは、やっぱり新幹線が窓口となろうと思うんですが、やっぱり遠距離の部分はちょっと不便ですよね。ということがあるので、これを機会にその辺りを積極的にアプローチしてほしいと思うし、それから、宇部空港は本当に近いですよね。だからその近さを利用した車の

アクセスというか、バスか何か分かりませんが、やっぱりこれをしっかり中で協議いただきたいと思いますので、やっぱり予算の中で全く計上されてないので、本当寂しいなという気がするんです。どうしても真ん中が中心になりますからね。だから、必ずや何がしらの手を打ってほしいと思います。これを要望しておきます。それから、先ほどの82ページの庁用器具955万円、10台ということで、一台は約100万円ですよ。かなりいいものだと思いますが、これはどのような調達をされるのでしょうか。既製品ですか。

長井文化振興課長 10台は全く同じものではなく、1台は不二輸送機ホールに設置を考えておりますので、少しいいものを考えております。残りの9台、市内の施設に置きます9台は同じものと考えておりますが、不二輸送機ホールに設置を考えておりますのは、作品を1台入れられるぐらいの、萩美術館ほどいいものにはなりませんけれども、あれがもっと小型になったものでケースに入ったものと考えております。残りの9個につきましては、いろいろと探しておりますけれども、なかなか既製品で、こちらがイメージしておりますものがないものですから、既製品に少し手を入れて発注するようになろうかと思っておりますが、合板のアクリルケース又はガラスのケースで蓋をするようなケースを考えております。

笹木慶之委員 先ほど奥委員が聞いたことは、多分この辺りのことだったんだろうと思うんだけど、先生方が作られた作品の価値がやっぱりもしくは失ったときのことなどを思いながら、やっぱりいいものもいいものに飾らないと見栄えがしませんわね。ということは、今まで大体聞いて分かりました。あとは、中でしっかりやってもらいたいと思います。それからもう一つは、84ページの看板設置。これ、約100万円組んでありますが、これは、何台作るんですか。1台ですか。

長井文化振興課長 看板は1台です。

笹木慶之委員 場所はどこですか。設置は。

長井文化振興課長 未来館の入り口に設置を考えております。

笹木慶之委員 はい、分かりました。

奥良秀委員 看板の件が出たんで補足でお願いしたいことがあるんですが、ガラス未来館の前の県道だと思うんですが、毎年、雨が多いときに、アスファルトの陥没であったりとか、要はがたがたができています。多分見られていますよね。ガラス未来館、多分しょっちゅう行かれています。だから、もし知らなければ、よく見ていただいて、もう、しょっちゅうそういうふうなところがありますので、やはりこういうふうメインのイベントをされるのであれば、そういったところもやっぱり見た目もやっぱりガラスなんで、一番大事だと思いますので、その辺はよく見られて検討されたほうがいいと思いますので、よろしくお願ひします。

長井文化振興課長 今御指摘いただいた道路の事情につきましては、ちょっと把握しておりませんでしたので、また現地の確認等にも行き、未来館のスタッフにも確認して、きちんと整備してもらえるようにしたいと思います。ありがとうございます。

山田伸幸委員 7市町、全部回ろうかと思ったら、とてもじゃないですけど、公共交通機関というのはほとんど不可能ではないかなと。現実的なのは、やはりレンタカーを活用していただくようになろうかと思うんですよね。もしくは御自分の車で来られるとか。外国の方であれば、レンタカーを活用していただくことで7市町の訪問ができるようにと思いますけれど、その辺では何か活用方法について検討されてきたんでしょうか。

川地地域振興部長 レンタカーにつきましても、実はもう実行委員会の中で有効活用していこうというふうには今、協議は進んでおります。7市町に

ついて、どういう会場でどういうものをするのか、チラシをレンタカーに置いていこうとか、そういった議論が進んでおります。それともう1点は、あとは、これは期間がもう決まっておりますので、いろんな全国に対してツアーを組んで、それでいろいろなお客さんから山口県のこの広域に来てもらおうという企画も組みつつあります。

長谷川知司委員 この看板の材質は何ですか。

長井文化振興課長 看板は、表示面はアルミ平版アルマイト仕上げとなっております。支柱はアルミ押し出し型材でアルマイト仕上げとカタログのほうではなっております。

長谷川知司委員 海のそばということで潮風が相当強いですから、防しよくに気を付けてください。それから先ほど笹木委員が言われました付加価値を付けるために、きららガラス未来館。これ設計は、今、有名な隈研吾さんです。ちょうどはやる前の20年近く前に造っていただきました。私専門ですので分かるんですが、ひさしの軽さ、それから中の天井、それから皆さんは行かれてないと思いますけど、海側のほうからの縦のブラインドがすごくきれいなんですね。ああいうものを見せる。そういうようにして、きららガラス未来館に誘導すればいいと思うんですね。今ちょうど、オリンピックがある競技場を造られた方ですから、それとまたソルポニエンテも同じように隈研吾さんです。そういうふうな、それとタイアップして、その建物の案内、そういうものをパネル化することができるかどうか。そしてまた、小野田ガラスにいらっしゃる西川慎さん。この方は、隈研吾さんとコラボして、海外ですごくいいホテルの内装をされてます。これも見応えある作品ですので、そういうものもパネル化して、付加価値としてきららガラス館に来れば、隈研吾さんの作品とソルポニエンテ、そしてまた西川慎さんの作品もあると。そして食事もできるというような付加価値で、是非そういう案内を作ってもらいたいと思います。そうすることによって、専門家だけでなく、オリンピッ

クとかに興味ある人もやっぱり見に来られると思いますので、そういうことも考えられたらと思います。

河野朋子分科会長　今のは意見として受け止めてください。

山田伸幸委員　入り口の看板はいいんですけど。山陽小野田市に入る前から、こちらに行けばこの施設がありますよという案内が非常に弱いんじゃないかなと思いますが、宇部方面から来れば、空港で降りてから、山陽小野田市のガラス未来館とか、今言われたソルポニエンテ、これは民間施設ですから市が宣伝するわけにいきませんが、竜王山だとか花の海方面とか、そういうふうな案内が今すごく弱いと思ってるんですけど、いかがでしょうか。

川地地域振興部長　委員のおっしゃるとおりで、なかなか山陽小野田市、元のサインの在り方ですとか、その付けている場所とか、なかなか市内中心で市外向けになってないというものもあります。今現在、シティセールス課のほうで看板がどこにあったらいいのかとか、どういう形で、例えば統一した看板を作っていこうかとか、あとは道路案内標識をどのようにしていこうかというサイン計画からちょっと作っていこうかなと思ってます。ただこれ、やはり若干時間が掛かりますけども、そういった形でいろいろ効果的なサインを作って、市外、県外からの方々を呼び込んでいこうかというふうに考えておる次第です。ちなみに、モデルケースとして先進的に既にくぐり岩につきましては看板を2枚、県道のほうに付けて…すいません、3枚ですね、公園に今、案内誘導いたしておる次第です。

山田伸幸委員　88ページの関連事業一覧からして、プレ博覧会が、今年の7月になるんですよね。それに間に合うんですか。今のサイン計画というのは、いかがですか。

川地地域振興部長 サイン計画はすいません、ちょっととてもじゃないですが間に合いそうにはありません。ただ、きららガラス未来館の場所がやはり分かりにくいと。今も設置看板がありますけども、非常に道路から見て分かりにくいというのがありましたので、看板についてはこのゆめ回廊に先駆けて作っていこうという次第です。

山田伸幸委員 市内でもガラス未来館があそこにあるというのを知らない市民がたくさんおられると思います。特に山陽地区の方はほとんどなじみがありません。(発言する者あり) いや、ほとんど御存じないですよ。やはり、誰が見ても、ここにあるよということが分かるようでないといけません。そういった市内の観光地図の中にはっきりと分かるようなことが必要ではないかなと思いますので、その点での配慮が今後されるのかどうなのか、その点をお答えください。

川地地域振興部長 観光マップにつきましては、きららガラス未来館の案内はされておると思いますが、やはりなかなか現地が分かりにくいのがありましたので、今年度、ちゃんと看板を付けて、分かりやすいようにやっていこうという次第です。

伊場勇副分科会長 79ページなんですけども、事業概要のところでは山口ゆめ散歩については、ガラス、書道、かるた、まち歩きを中心に体験プログラムって。まち歩き、ガラス、かるたは何となく分かるんですけども、ここに書道が入っていますが、どういったことをするのか、なぜ入れたのか教えてください。

原野シティセールス課観光振興係長 書道につきましては、今回のゆめ回廊博覧会につきまして、テーマがアートということになっております。このプログラムを造成するコンダクターの事業者にはヒアリングを各市町しております、各市町どういった素材があるかっていうのは、一旦洗い出しているような状況にありますので、本市におきましても、ガラスやか

るたっというのは皆さんもそうだなっというふうにすぐに思っていただけかなと思うんですけども、書道につきましても、いろいろですね活躍されている方が市内でいらっしゃいますし、実際ガラスのほうと、コラボされて、イベント等されていらっしゃる書道家の方もいらっしゃいます。そういったことを見ていただいたときに、こういったものもいいんじゃないかっていうところでの土俵に上がってきているということと、あとは実際、書道家の方とか、それぞれの作家の方とかと調整する中で、よりよいものができ、利用に検討していきたいなというところで挙げている次第です。

山田伸幸委員 今の書道でいえば、後で聞こうかと思ってたんですが、いろんな、今、イベントといいますかショッピングセンターなんかで、自らの書で、パフォーマンスなんかをやっておられる方もいらっしゃるんですよ。それとかレノファの、これ今年は違うかな、去年は、廣石さんという方が作られておりますが、この方の書というのはやっぱり、いわゆる書道とまたちょっと違った立派な作品を書かれておりますけれど、そういった方の活躍の場がなかなかないんじゃないかなと思ってますが、ここに書かれたということはそういった、ほかの方も含めて書道にも注目をしていく、何らかの書を書いていただいて目立つように、魅力アップのための素材の一つとして、そういった方の作品も展示しますよということなんでしょうか。それとも別の活用の仕方を考えておられるんでしょうか。

原野シティセールス課観光振興係長 実際、今委員さんおっしゃられました廣石さん、こちらにつきましては、実際レノファの横断幕を作成されて実際の御本人がそういったデザイン書道を教えていただくような体験とかも実際に行われています。実際御本人にもこういった県央連携の話とかも情報提供させていただいているところでして、今後、実行委員会のコンダクターのほうと先ほども申し上げたように相手方の作家さんとかでもお話する中で、具体的にいいものがブラッシュアップできたものが、

実際この博覧会の体験プログラムでできるように、調整をさせていただけたらなというふうに進めてまいりたいと思っております。

河野朋子分科会長 よろしいですか。それでは、**17**番まで終わりましたので、**19**番の事業。

吉井地域振興部次長兼シティセールス課長 97ページを御覧ください。審査事業**19**番、パラサイクリングのまちPR事業について御説明します。まず、事業の概要です。東京2020パラリンピック開催までに、市民等がパラサイクリングを応援する機運を最大限に高めるため、市内の様々な場所や機会を捉え、集中的にPRを行うものであります。次に指標ですが、下の妥当性、有効性、効率性については、重点プロジェクト該当事業等ということで35点の評価となっております。98ページには予算を記載しておりますが、支出の内訳としては、講師謝礼9万7,000円、普通旅費24万3,000円、消耗品費52万7,000円、印刷製本費15万円、スポーツ教室委託料50万円、デザイン委託料10万円、会場借上料11万円、著作権使用料1万円です。財源としましては、全額ふるさと支援基金繰入金を充当しております。99ページには、事業の内容を記載しております。事業の内容は、①PRの実施として、ポスターの作成や出前講座・巡回展示の実施、②壮行会や報告会の開催として、横断幕作成や花束等の贈呈、③講演会の開催として、聖火リレーのランナーであるパラサイクリング日本ナショナルチームの権丈監督を講師とする講演会の開催、④職員派遣として、大会会場へ情報収集と発信のための職員の派遣等を予定しております。以上です。

河野朋子分科会長 それでは質疑を受けます。

中岡英二委員 以前、パラサイクリングの選手の方が載ったうちわを作られますよね。その活用は、この度も考えておりますか。

中村シティセールス課地域政策係長 今年度の事業でタンデム自転車の体験試乗会をやりまして、そちらの参加者とか、あと交流事業に参加して下さった方に配布する目的でうちわを制作しました。来年度につきましても、パラリンピック本番までに応援する機運をますます高めていくということもありますので、そういったPRのグッズを作成するようなことも考えております。

山田伸幸委員 パラリンピック開催日程がそこに書いてありますけれど、これは見ると職員だけが行くという予算になってるんですが、もっと幅広く応援される方を募るとか、そういうことは考えておられないですか。

中村シティセールス課地域政策係長 今年度パラリンピックの本番ということで、どのようにしたら市民の方に情報とかが届けられるかっていうのをいろいろ考えました。その中で当初、パブリックビューイングというようなことも考えておりましたが、現段階で、どの選手がどの競技の代表として選出されるかというのが、まだ分かりません。実際分かるのが6月になります。それと、パブリックビューイングというのは、放送されないと当然放映ができないということがありまして、そういったところの制約がまずあります。それから大きい会場でやったとしても二、三百人程度の規模が限界かなと思っておりますので、一番こう多く市民の方、市外の方も含めて情報発信ができるのが職員派遣をして、リアルタイムな情報を市なり市内外に届けるっていうのが、最大限皆さんに情報を伝えられる手段なのかなということで、このような事業立てにさせていただきます。

原田シティセールス課課長補佐 それと、先ほどおっしゃられたような希望を募るというやり方もあるのかもしれないんですが、やはりパラリンピックもチケット販売の規制等があり、個人しか買えなかつたりしますので、まとめて旅行団体がオフィシャルスポンサーになられて買われておればあるんでしょうが、そこまでは、大変申し訳ないですが、この辺りでは

やってないということで、企画をしております。

笹木慶之委員 ちょっとよく分からないので教えてもらいたいんですが、例えば壮行会とか、それから、あとの合宿また報告会、いわゆる交流会での来訪とか、場所はどこでやられるつもりですか。

中村シティセールス課地域政策係長 壮行会につきましては、現段階では合宿中に行うことを想定しておりますのでオートレース場になるか、それかより多くの市民の方にとということであれば、例えばサンパークをお借りしてというようなことも一つにはちょっと考えております。まだちょっと決定には至っておりません。それから報告会につきましては、先ほどハロウィンの事業の中で少し触れたかと思いますが、より多くの市民ないし、市内外の方に御報告ということで、ハロウィンの場をお借りして、報告会を盛大にしたりってということも考えております。

笹木慶之委員 私がお願いしたいことは、せっかくですから、こじんまりやるんではなしに、やっぱり盛大に送ってあげてほしいと思うし、帰られたらやっぱりそれを受けて、やっぱりきちっとした報告会をしてもらって、多くの人に知ってもらおうというね、やっぱりそこまでつないでほしいと思うんですよね。しっかりやっていただきたいと思います。

山田伸幸委員 聞きたいんですけど、率直のところ、世界の中での今の日本チームの置かれているポジションというのは、どの辺りになってるんでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 ポジションというのは、すいません、メダルが取れそうとかそういった意味ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）まず代表に選出された上でっていうのがもちろんありますけれども、1月でしたか、カナダで行われました世界の大会のほうでも上位入賞を果たされていらっしゃると思いますので、その前後の大会でもメダルを取られた

ようなことも聞いておりますので、代表選出された暁には、上位入賞されるのではないかと期待はしております。

中岡英二委員 PR用の横断幕を設置するとありますが、これはオートレース場、厚狭駅、小野田駅、市役所にも付いていますが、是非ですね、市役所、左の一番上に付いているじゃないですか、今。目立たないですね。もっと下に下して目立つようなところに変えていただきたいなと思います。それともう一つ、盛大にやるのでは、商業施設のサンパークにもお願いして、どっか付けるところはないかという、そういうお願いもしていただければと思います。せっかくですので大々的にやってください。

河野朋子分科会長 検討してください。よろしいですか。次の事業に移ります。
20番の事業です。

船林シティセールス課市民館長 審査対象事業 20番、市民館改修本事業について説明をします。審査資料101から103ページを御覧ください。市民館改修工事が、この度完了し、令和2年度から、リニューアルオープンとなることに伴いまして、市民や地域住民の方々に新しくなった客席やロビー、エレベーターなどを御覧いただきまして市民館に親しみを感じていただき、今後の利用促進につなげるとともに、芸術文化に親しんでいただきまして文化によるまちづくりの推進を図るために、市民館改修オープニング事業を実施したいと思っております。資料の妥当性、有効性、効率性の評価につきましては33点となっております。予算につきましては102ページを御覧ください。今年度の事業を推進するに当たりまして報奨金2万円、消耗品費2万円、食糧費2万円、通信運搬費1万円、手数料2万円、業務委託料が95万円、著作物著作権使用料3万円、合計107万円です。収入につきましては、入場料収入35万円を見込んでおりまして、一般財源72万円を見込んでおります。事業の内容につきましては、103ページを御覧ください。イベントは、文化ホールのコンサート、それからロビーなどの展示コーナー、体育ホー

ルのスポーツ体験コーナーということで考えております。文化ホールの記念コンサートは、バイオリン、チェロ、フルート、ピアノによるコンサート、これに市内在住のソプラノ歌手3名を参加していただきまして、子供から大人まで楽しんでいただける演奏会にしたいと考えております。ロビーにつきましては、地域の方々の作品展示を中心とした展示会、体育ホールにおいては、どなたでも参加できるスポーツ体験コーナーなどを企画しまして、当日たくさんの方に市民館にお越しただいて、楽しんでいただけるような1日にしたいと思っております。以上で説明を終わります。御審査よろしく申し上げます。

河野朋子分科会長 はい、説明が終わりました。質疑を受けます。

山田伸幸委員 実際に市民館の中に、私たちが中に入って見れるのはいつからなのでしょう。

船林シティセールス課市民館長 4月1日からオープンの予定にしております。ホールのほうについては、貸し館が入ってなければ、お声を掛けいただければ、見ていただくことは可能です。

笹木慶之委員 基本的なことをお尋ねしますが、なぜ市民館の改修だけオープニング事業を行うんですか。まずお伺いします。

船林シティセールス課市民館長 市民館につきましては、この度、耐震改修工事2年間の休館をしておいて、市民の方に大変御迷惑をお掛けしたということがまず一つあります。それから、文化ホールを有する文化施設ですので、文化ホールを改修した際には、こういった事業を行うということは一般的であろうかと思っております。

笹木慶之委員 午前中の審議でもありましたが、埴生にも公民館ができます。学校はいいんですが、それらと比較して、なぜということをお考えませ

んでしたか。笑いごとではないですよ。

川地地域振興部長 市民館の設置目的ですけども、市民館は先ほど館長が申し上げましたように、市民の福祉の向上を図る公共施設であるということです。そのために今回耐震化して、新たに文化ホールの客席を全てちょっとやり替えさせていただいております。ここは、自主文化の事業もやるようになっておりますので、自主文化事業の一環として、こういった事業をやると。それに関しましては、このオープニングということもひっくるめて、せっかくですからリニューアルという名前を付けさせていただいて、自主文化事業をやらせていただくということです。決してですから、他の公民館との比較ということは、申し訳ございませんが私どもは考えておりません。

笹木慶之委員 かつて本市が、発足する前はちょっと別として、以後ずっといろんな施設ができました。複合施設もできました。それから、理大もあれだけのものができて、いわゆる全国ネットでPRしなくちゃならんというふうなことも含めてありましたが、やはり前提論はきちっとしたオープンセレモニーはされるけれども、やはりこういったものの予算は付けて実行したことがありません。だから、それらを参酌して、やっぱりその辺りの理由づけがはっきりしないんですよ。これ、今日たまたま持ってきましたけど、実は複合施設ができたときです。実は当時やっぱり会館のお披露目をしてほしいと。それこそ公民館もしばらく使えませんでしたし、いろんなことがありましたからね。ですが、市はできないということですから、我々自治会協議会が、イベントをやったんです。そういう背景も実はあること御存じですかね。これがそのときに、我々が作ったタオルです。「待ってました」かな、「待ちよったよ」かな、ということで、我々が手作りで、そして、市の職員、市長にも来てもらって、一緒にお祝いをした。立派な祭りであったと思います。というふうなことも、やっぱり全部調べた上でされたんかなというのはどうも納得できませんでしたからね。だから、やはりこういったものについては

不自由を掛けておるのはどこも一緒だと思うんですよ。ですが、それは文化会館を使ったりほかのところを使って、やっぱり諸行事をしておられるわけです。やっぱりこれなぜかって皆さん首をかしげるんじゃないですか。と思いますけど、いかがですかね。

河野朋子分科会長 今の質問ですか。何ですか。意見ですか。

笹木慶之委員 いやいや、今聞きよる。おかしいですか。

船林シティセールス課市民館長 他の施設のことに思いが至らなかったことは、確かにそのとおりのかもしれません。すいません。誠に申し訳なく思いますが、市民館に関しては、とにかく2年間、休館して、いろんなところに、市民の方、文化団体もそうですし、公民館の利用者の方もいろんなところに行って利用されて、本当に御不便をお掛けした。2年間使えないということは非常にやっぱり大きいことであったという思いがありましたので、やはりここで、せつかく文化ホールが新しくなる、客席もきれいになることですから、ここで誰でも希望すれば見れるコンサートということを行うことが、市としての気持ち、市民の気持ちに伝えることであろうかと思って、この事業を計画いたしました。

山田伸幸委員 いわゆるこういったイベントホールの場合は、こけら落としという位置づけでやりますよね。そういった意味合いがあるんじゃないかなと思ったんですが、この講演をされるのは、これプロフェッショナルの方がやられるんでしょうか。

船林シティセールス課市民館長 バイオリン、チェロ、フルート、ピアノの4名の方は、国内で活躍してらっしゃるプロの演奏家の方です。ソプラノ歌手3名の方は市内で御活躍されてる方です。

中岡英二委員 市民館の改修オープン事業に直接関わらないんですが、運営資

金のための有効な、また企業の宣伝にもつながるネーミングライツ、その辺のことは将来考えておられますか。

川地地域振興部長 ネーミングライツ事業につきましては、全庁的にこれ考えていかなきゃなりません。ちょっとまだ今方向性がちょっと、まだ出てない。先導的、モデル的に文化会館をやりましたけれども、庁内の中で、どこやっぺいこうかというのがありますので、その辺の協議を踏まえながら、私どももやれるものであれば積極的に考えていきたいなと思っておる次第です。

山田伸幸委員 この市民館文化ホールというのと、文化会館というのは非常に紛らわしい。私も何度か参加したときに、どなたか1人ぐらいは会場間違えて行ったという方がいらっしゃるんですよ。そういった意味で、明確に文化会館厚狭駅前とか書かなくても分かるような、そういった名称づけが必要ではないかなというふうに思うんですが、苦情がまだ行ってるんじゃないですか。その辺はいかがですか。

河野朋子分科会長 今は不二輸送機ホールになってるんですが、最近どうですか。

長井文化振興課長 不二輸送機ホールの名前が今定着してきておりますので、場所がどこにあるんですかという問合せはありますけれども、市民館と間違っぺってというような声は、私たちのほうには入っぺきておりません。

奥良秀委員 開催予定日が6月14日になってるんですが、これ使用されるのが今館長のほうが4月1日から使えますよっぺという話なんです、このタイムラグはどういった理由でしょうか。

船林シティセールス課市民館長 この度、予算が通過いたしましたら、本格的に準備をしなければいけませんので、その準備のための時間が必要です

ので、一番早くても6月中旬ということはこの日を設定しております。

奥良秀委員 ということは、完成間近というか、もう計画はつい最近できたということでしょうか。

船林シティセールス課市民館長 計画自体は、実施計画に挙げるのはもう昨年の夏頃ですから、その頃からずっと計画はしておって少しずつ下話をしておる段階ではあります。

奥良秀委員 ということは、もう去年の夏ぐらいから、こういうふうなお話があったということで、これ確認ですけど、よろしいですね。

船林シティセールス課市民館長 はい、実施計画に挙げたのが、昨年の8月とかなので、そのときに挙げております。

奥良秀委員 ある団体の方から、こういうふうな行事を自主的にというか、4月1日にやりたいというお話があったかどうか、確認されてるかどうか。どうでしょうか。

船林シティセールス課市民館長 4月1日に貸し館でされたいということで話が進んでおったんですけども、ちょっと今のコロナの状況でキャンセルなさいましたが、そういったお話もお聞きをいたしております。

奥良秀委員 話が4月1日、市民の団体からやりたいという話があったけど、今回は、市が主催として6月の14日にやられるという流れになったということ、よろしいんですかね。

河野朋子分科会長 ちょっと話が分かりませんが。

川地地域振興部長 実は公共的団体の皆さん方から、そういうお話ありました

が、ただ、今、館長が申しあげましたように、市として本日お話ししたように、実際私どももこういう計画を持っておりまして。4月1日に一緒にできないかという話もちよっとありましたけれども、私どももやっぱり予算というものがありますので、なかなか4月1日には難しいということもお話をさせていただいた中で、では4月1日に、そういった公共的団体の皆様方がやっていこうという話もあったんで、実際にもう許可も出しとったんですが、コロナの感染症の関係で、ちょうど今回キャンセルになったということです。

奥良秀委員 先ほど来からいろいろな方に迷惑を掛けて、工事もいろいろありましたので、そのためにこういうことをやられるっていうことがあったので、なるべく仲良くという意味じゃないですけど、角が立たないようにしていただきたいなと思います。前例がないことなので、やはり市民の方から、特にこれは今、施設でいえば山陽小野田市なんですけど、地域別で言ってしまうと、旧小野田市なんですよね。余りやはり旧山陽町のほうから見てみると、やっぱり温度差が出てくるのかなというところもありますので、かなりデリケートな問題もあると思いますので、その辺はよく考えられてやっていただきたいと思いますし、市長の施政方針のときに、選択と集中であったりとか、今日の審議の中でも、財政状態が厳しいっていう状況の総務のほうからの話の中でも、やはりこの金額っていうのは100万円っていうのが、かなりどうなのかなと。財政状態が厳しい中で、こういうふうなお祭り事をされるのが、私としていいものかどうなのかっていうのがありまして、この公演業務委託料95万円っていうのが、実際問題であれば、これ市民のための市民館だと私は思ってるんですが、であるのであれば、やはりいろんな、例えば、小学校、中学校、高校いろんなブラスバンドとかそういうところがあると思うんですが、そういった方たちのほうが市民受けというか、一個段が下がって皆さんが来やすいんじゃないかなと思いますし、入場料が要は高校生以上1,000円取られるということで、どうなのかなっていうのはあるんですが、この辺の協議っていうのは、もちろんされて出して

と思うんですが、市民感覚から見た場合、誰もが参加しやすいのかな
ってというのは考えられましたか。

河野朋子分科会長 入場料の件ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）入場料の件は
どのように。

船林シティセールス課市民館長 入場料につきましては、無料で入っていただ
くことがベストとは思いますが、市民の側からするとですね。今回このイ
ベントにしましたのは、ちょっとジャンルを特定したくないという気持
ちがありまして、例えば今おっしゃられました小学生、中学生の吹奏楽
ということであると吹奏楽の好みの方は来られるかもしれませんが、地
域の方、御老人の方、子供が来るかということ、なかなかそうもならない
かもしれないというところもあったりして、どなたでも楽しんでいただ
けるっていうのはどういうものなんだろうかっていうところから考えを
スタートしました。この構成であれば、こちらからのリクエストに応じ
て、クラシックからジャズであったり、いろんな曲をこちらからのリク
エストに応じた形でしていただけるということをお願いをしたところ
です。プロですので、お値段的には、多少、非常に高いというわけではな
いんですけども、お支払をしなければいけませんので、それを全部た
だっていうわけにはいかないんで、やはり負担といいますか、そういっ
たことで、1,000円の入場料は致し方ないところかなと思っており
ます。

奥良秀委員 なら、最初からプロありきということで、市内在住のアマチュア
の方とか、そういった方っていうのは考えなかったということではよろし
いでしょうか。

船林シティセールス課市民館長 そういうわけでは決してございませんが、い
ろんなことを考えた後に、最終的にこれがいいのではないかと思ひ至り
ましたということです。

奥良秀委員 やはり95万円っていうのが、財政状態のことを考えられたときに、どうかなっていう疑問っていうのはなかったでしょうか。

船林シティセールス課市民館長 実施計画ですので、実はこれ3年ぐらい前から、中身は違いますが、オープンするときには何かイベントができたらしうことで考えておりました。当初は、実は300万円とかいう予算を考えておったんですけども、それは余りにも無理があるというか、現実的でないということで、支出ベースで100万円、35万円の入場料というところに落ちついたというところですよ。

川地地域振興部長 金額の件ですけども、先ほどからずっと財政状況のこともありますんで、本当は、もっと有名な方っていいですかね、もっとそのレベルの高い方を呼ぶと300万円、400万円ぐらいになるんだらうということで、最初はその辺から検討してきましたけれども、やはり幾らこけら落とすといえども、余りにも高額な金額はちょっと難しいんじゃないかということで、これはもう部内の中で金額を調整して、そこから実施計画に持っていったという経緯もありますので、その辺は十分に私どもは調整を内部でしたつもりですよ。また今後これがまた一つのベースになってくるだらうと思いますけども、やっぱり全体的に、委員さんから御指摘いただいたことにつきましては、また庁内でちょっと統一した理解をすべきだらうと思っております。これはまた持ち帰ってまたお話をさせていただこうと考えております。

笹木慶之委員 あえてもう1回言っておきますが、先ほど説明が口頭であった事項と、この趣旨が違うんですよね。説明は、今まで御不便を掛けたからというふうなことを言われましたが、趣旨には全くそんなことは書いてありません。どっちが本当なのかということですよ。これは工事ができて、そして市民に新しくなった文化ホールなどを見ていただいと書いてある。けど先ほど説明では、2年にわたって御不便掛けたと、

公民館活動もどうだこうだというふうに言われました。違うじゃないですか。それも含めてですよ。そして今、奥委員も言ったように、今の時局の中で、流れてきたものを何でここに温度差を付けるのかと。やるなら違う方法がまたあるじゃないですか。こういったタイトルの中でやらなくてもですね。それから、やっぱりここは、小野田地区の市民館っていうか、地域の利活用もあるということも事実問題ですね。例えば、埴生や厚狭の人はここに来て、そういったことは使えませんよね。そういった目的では。ほかのところもそうだと思います。そういったことを含めて考えたときに、全く切り離して考えられない。ダブってるところがあるから言ってるんですよ。地域性がダブってるから、そういったことに対する感情が出てくるよということ言ってるわけ。ということを含めて、今、川地部長が言われたように協議をするということですから、協議してください。お願いします。

河野朋子分科会長 意見ということで、もう答弁はいいと思います。

長谷川知司委員 これ提案なんですけど、今まで小野田市民館、山陽小野田市民館文化ホールっていう言葉使ってまして、この経緯っていうのは、この建物ができたときに先に体育ホールができてたんですね。それを何年か使って、後に文化ホールができたために、体育ホール、文化ホールという使い方してるわけなんです。この際、この使い方をやめて市民館だけにして、文化ホールという名前を使わないようにすれば、文化ホールと文化会館との間違わないと思うんですよ。ですから今後は、市民館といえば、もうそれだけでいいと思うんです。あえて付けるのであればもう体育ホールを使うときだけ市民館体育ホールと付ければいいと思うので、これは一つ提案ということで、今後改修したので、その際にもう文化ホールという言葉は使わないで、どうかっていうのをちょっと検討していただければ、市民は間違いにくいんじゃないかと思いますが。

河野朋子分科会長 今そういった意見もありましたので、意見がいろいろ出て

おりまして、いろいろ今回のオープニング事業について、意見が様々出ましたので、一応受け止めておいていただきたいと思いますけれども、これ以上の答弁は繰返しになると思いますので。それでは今、20番まで終わりましたので、ページに入りたいと思います。予算書の80、81、86、87ページについて質疑を受けますので、お願いします。80、81ページ、広報だけですね。80、81ページと86、87ページのところで質疑を受けます。事業でほとんどやっておりますので、ここはほとんどくまなくやっておりますので、いいですか。

山田伸幸委員 先ほどまでの事業の中にはあんまり出てこなかったことで、ふるさと支援基金積立金ということで、ふるさと納税の関係だと思っておりますが、1億3,000万円ほど計上されております。今年度の実績を鑑みてこの金額だと思っておりますけど、これ大きく増やしていこうとかいうそういう取組の考えはないんですか。いかがですか。

中村シティセールス課地域政策係長 今年度、令和元年度につきましては、当初予算8,000万円で、補正をさせていただいて9,500万円という現状です。令和2年度につきましては、ウェブサイトのほうを増やすとか、あとその他商品を新たに開発するというような取組を想定して増やした中での1億3,000万円という予算を組ませていただいております。

山田伸幸委員 これは昨年末ぐらいに急に利用が増えたと思うんですけど、いまだに年が明けてもそういう勢いが続いているんでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 毎年の全国的な傾向としまして、12月がやはり駆け込みで寄附される方が多くて、本当12月には、昨年度1年分を超える御寄附を頂いたところなんですけれども、毎年の傾向として、年が明けるとぱたっとその流れがやんでまいります。ただその中でも、昨年度に比べまして、1月分につきましては4倍程度、2月につき

まして2倍以上の御寄附を頂いておりますので、年間の件数からすると、やはり年明けは少ないんですけども、昨年度と比較しますとやはり増えているってというような傾向です。

山田伸幸委員 希望される商品というのは、プラスチック製品がやっぱり相変わらず多いんでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 全体的な傾向としてはそんなに変わっておりませんので、そういった衣装ケースも相変わらず出ておりますけれども、ふぐが、3月までの冬季限定のようなものですので、最近は締切り間近ということもありまして、ふぐが少し件数が出ておるかなと思っております。

河野朋子分科会長 よろしいですか。ふるさと支援基金。86、87ページがなければ、98ページから113ページ。文化振興、先ほどの事業とも重なっております。市民館費も入ります。

伊場勇副分科会長 101ページの委託料のところ、公演業務委託料とありますが、先ほどのオープンイベントプラス何を考えていらっしゃるのかなと思って。101ページの13節委託料、公演業務委託料180万円ですね。

長井文化振興課長 180万円、文化振興課の公演業務委託料です。これは、例年開催しております山響のサマーコンサートや、市内の小学校6年生の鑑賞会である子供文化ふれあい、それから、市民の皆様にもいろいろな芸術に触れていただく芸術文化鑑賞事業。それと、来年度はかるたフォーラムの開催を計画しております。

伊場勇副分科会長 すいません、場所が違ったようですが、そのかるたフォーラムだけ新しい事業として、後は、もう続けていらっしゃるものって

ことですか。

長井文化振興課長 そのとおりです。

河野朋子分科会長 ほかに。113ページまであります。きららガラス未来館
もあります。

伊場勇副分科会長 市民館のほうで103ページですね、委託料で害虫駆除っ
てあるんですけど、あんまりこれ出てこない部分であるんですけど、市
民館は害虫がそんなに出るんですか。

船林シティセールス課市民館長 害虫といいますのは、ゴキブリ、ねずみ等が
出ますので、バルサン等で害虫駆除を行いたいと思っております。

山田伸幸委員 市民館で、私は以前、主催者でやったときに非常に悪い思い出
がありまして。というのは、裏に縦長のシャッターがあって、それが外
の風が強くてガタガタ揺れて、これも随分前の話なんですけど。主演さ
れる方に非常に不快な思いをさせたことがあるんですけど、あのシャ
ッターはいまだに設置されているんでしょうか。

船林シティセールス課市民館長 この度の耐震改修工事で、扉、シャッターは
もうそのままなんですけども、ほぼ上げたまま使わない状態にして、扉
を改修いたしまして、扉で開閉をする形にしております。ですので、シ
ャッターでガタガタするという事は、今後はないと思っております。

長谷川知司委員 111ページ一番上ですがサッカー場のサッカー交流公園運
営協会負担金とありますね。これは今年までこれで来年度から変わると
いう見方でいいですかね。

矢野スポーツ振興課長 それは移管されることを前提にということですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)今、県のほうで令和2年度の予算が発表されて、県立おのだサッカー交流公園の改修予算が付いたということは承知しております。これについて、市としては条件は整いつつあるということで、完全にこの移管を受けるとほぼ決まりではあるんでしょうけど、正式な表明ではないと思いますので、今のところ何とも言えません。移管されれば当然なくなるものにはなりません。

長谷川知司委員 その場合、この金額というのは大体これでいくわけですかね、運営費そのものが。

矢野スポーツ振興課長 こちらについては現在、スポーツ交流施設、レノファのクラブハウスとして使っている施設の主に光熱水費での負担金ということになりますので、一応11節で組んでいくようになると思います。

奥良秀委員 ちょっと今関連の質問なんですけど、今移管っていう話が出たんですけど、今のお話では、内容的にはもう移管が進む話で答弁されたと思うんですが、そうすると今後の何年間かの予想というか予定というか、維持管理等々をやっぱり立てていかなくはいけないだろうし、もう今の段階でできてなくては、多分いけないと思うんですよ。今後、5年間ぐらいの投資見通しであったりとか、そういったものはもうできてるんでしょうか。

矢野スポーツ振興課長 現在おのだサッカー交流公園への運営費負担金、基本的な予算は2,400万円です。こちらについては、市が全額負担金を出しておりますが、一応この額を超えない範囲で運営はできるというふうに考えております。プラス支出があっても、2,400万円を超えない範囲でできると考えております。

奥良秀委員 もう1回確認なんですけど、サッカー交流公園の維持管理、全て年間で2,400万円ということよろしいですね。

矢野スポーツ振興課長 今県立おのだサッカー交流公園が、いわゆる県が今管理している交流棟、それから倉庫棟、天然芝のサッカー場、それから人工芝のサッカーコートが2面分あるわけなんです、こちらの管理については、2,400万円で購入すると思っております。スポーツ交流施設、レノファがクラブハウスとして利用している施設については、プラス先ほどの負担金同等の額が掛かってくる。一応こちらの額が掛かってくるように考えております。

山田伸幸委員 突然飛んだんでびっくりしたんですが、文化会館に戻らせてください。文化会館は以前、顧問の方が努力されているんな主催イベント等やってこられておったんですが、現在はどのような運営がされているんでしょうか。いろんなそういう主催行事について。

長井文化振興課長 芸術顧問制度は廃止させていただいたんですけれども、その代わりに芸術文化アドバイザーということで、ガラスの分野、かるたの分野、音楽の分野と、それぞれ2名ずつアドバイザーの方を任命しておりますので、分野ごとにそれぞれのアドバイザーにいろいろな相談に乗っていただいて諸事業を進めております。

山田伸幸委員 主催行事というのは、市民の方がよく鑑賞に来られるような、そういうすばらしい内容になっているんでしょうか。いかがですか。

長井文化振興課長 毎年いろいろとジャンルを変えて、いろいろな方に音楽であつたり、今年度は落語を中心とした古典芸能の観賞事業を開催しましたが、毎年いろいろなジャンルで、皆様にお楽しみいただけるように企画しております。

笹木慶之委員 99ページの文化振興費の報償金の255万8,000円の内訳を教えてください。

長井文化振興課長 これは、各種事業の審査委員の謝礼、児童生徒書道展であったり、ピアノマラソンの審査員であったり、その謝礼とあとは12月に開催します少年少女合唱祭への出演団体に対する謝礼。それから、あとはアウトリーチ事業の出演者への謝礼。それとあとは、各種委員さん、文化によるまちづくり推進員さん、かるた振興委員会の委員さん、それから、芸術文化アドバイザーの謝礼が含まれております。それともう一つ追加で、令和2年度は東京圏でのガラス展示を開催予定としておりますので、その展示に対する指導の謝礼も計上しております。

笹木慶之委員 例のアドバイザーが6人おられると。アドバイザーの報奨金って幾らなんですか。

長井文化振興課長 アドバイザーの謝礼は予算100万円を計上しております。

笹木慶之委員 もう1点は今のガラスの件。ガラス展示の関係は。

長井文化振興課長 東京での指導謝礼は10万円を計上しております。

笹木慶之委員 はい、分かりました。

山田伸幸委員 101ページ19節負担金で、現代ガラス展実行委員会負担金が510万円となっていますが、全体予算が幾らで市の負担がどういう理由でこういう負担金になっているのか、その点をお答えください。

川地地域振興部長 一応2か年の事業で、今年度と来年度の事業ですけども、一応、来年度の令和2年度の事業費ということでよろしいですか。一応、全部で1,616万2,000円です。ガラス展の実行委員会の総事業費が1,616万2,000円です。

山田伸幸委員 市が大体3分の1弱を負担しているということなんですが、あとはどういった負担になっているのか。どういったところが負担しているんですか。

長井文化振興課長 入場料を見込んでおります。それから第8回のガラス展につきましては、各企業や個人の方にスポンサーになっていただくということで広く働き掛けをしておりますので、そちらの収入も見込んでおります。

川地地域振興部長 1,616万2,000円は、2か年の事業で1,616万2,000円。さっきの510万円っていうのは、来年度の市の負担ですから、市は今年度300万円出してますんで、810万円出してます。したがって、市は約50%を出しているという計算になっております。それから、入場料は350万円ぐらいですか。あとは、いろいろな団体の助成金が40万円ですとか、一応企業からいろいろな協賛金を頂いたり、あるいは個人の方々にサポーターになっていただいておりますので、そういった収入で今賄おうとしております。

伊場勇副分科会長 文化会館費の105ページなんですけど、工事請負費って書いてますが、403万円。何の工事をされるんですか。

長井文化振興課長 受電施設開閉機等の更新、それから館内の防火設備の修繕、自家発電装置用の蓄電池等の更新を予定しております。

山田伸幸委員 今の更新というのは、かなり大きな電気設備の更新ということではよろしいんですか。

長井文化振興課長 受電設備開閉機と申しますのは、不二輸送機ホールの敷地内にある設備で80万円を予定しております。それから、自家発電装置用の蓄電池は、非常時の際に稼働する自家発電装置の蓄電池の交換等で

180万円計上しております。どちらも一定の更新の事業で開館しまして25年たっており、かなり設備が古くなっておりますので、そのための更新です。

伊場勇副分科会長 スポーツ振興費の107ページ。107ページの消耗品費が今年度より130万円ぐらいアップしておりますが、これは聖火リレーとか、そういったことかなと思うんですがいかがでしょうか。

中村シティセールス課地域政策係長 スポーツ振興費につきましては、様々な事業費が含まれておりまして、聖火リレーに関わるものが87万円。それから先ほど御紹介しましたパラサイクリングのまちPR事業が52万7,000円等も含まれておりますので、昨年度より増えておるかなと思っております。

河野朋子分科会長 はい、ほかに。（「なし」と呼ぶ者あり）なしということで113ページまでなしということなので、218から221ページまで。事業はやりましたが。

山田伸幸委員 観光協会のことなんですけど今、実質、市が事務局ということでやっているんですが、これはどうしても独立をさせていくというような方向というのは、今まで検討してきたと聞いてきたんですが、最近では、どのように考えておられますか。

川地地域振興部長 県内のいろんな市を参考に、本市の人口規模を見ながらどのような体制でやっているかっていうのをいろいろと調査をしてまいりました。実際に、本市の観光協会をもし独立させるとなると、やはり毎年二、三千万円ぐらいの費用っていうのが出てきます。この辺の費用対効果を見ていくと独立して専門の職員を置いてやっていくのがいいのか。それとも、うちの観光政策との絡みをしながらある程度の兼業でやっていくのがいいのかということと比較衡量した場合に、本来であれば政策

と実際の観光振興は分けたほうが効率的ではないかというふうには考えられますが、当分の間は今の体制でやって、お互いを補完していくしかないかなというふうな考えでおる所存です。

山田伸幸委員 実際に観光面で、いわゆる観光客というのが押し寄せてそれをさばき切れないというような状況にないというのはよく分かります。しかしながら、今後の方向として、いつまでもそれではいけないと思えますし、本当にこう山陽小野田市を観光でたくさんの外からのお客さんを迎えるというのであれば、やっぱりそういった専門機関も必要であると思うんですが、現状ではそうではない。そうは言っても、やはり、この7市町も含めていろんな観光事業をやろうとしておられるわけですから、その辺はいつまでもまま子扱いでなくて独立も検討しながら、本市の観光振興を図っていくということが必要だと思っております。是非そういった面でいうと、市の職員ではないプロパー育成も必要ではないかなと思うんですけど、考えておられますでしょうか。

川地地域振興部長 実際にプロパーの育成につきましては、たしか平成20年から5か年事業でふるさと雇用という国の事業がございまして、実際にプロパーの要請を本市といたしましても、ちょっとした実績があります。ただその成果を見る中でも、なかなかちょっとそちらのほうに方向転換が、できるようなちょっと成果が上がらなかったというのもあります。その点も踏まえながら、また今後、やっぱり広域での連携というのが必要になってきますんで、そういった視点からの協議も必要ではないかというふうにご考慮の次第です。

河野朋子分科会長 よろしいですか、そこまで。それでは、②の審査は全て終わりましたが、③に山陽総合事務所だけ来られておりますので、その部分だけをして、本日終わりたいと思いますので、職員の入替えをしたいと思います。

(職員入替え)

河野朋子分科会長 すいません、5時になりましたが、少し延長させていただきます。審査番号③のうち山陽総合事務所関係のみ、本日、審査したいと思しますので御協力よろしくお願ひします。審査番号③番の中の山陽総合事務所関係ですので、審査事業⑥番についてまず説明を受け、その部分の予算書について、質疑を受けるところまで本日進めさせていただこうと思ひますが、よろしいですかね。(「はい」と呼ぶ者あり)お待たせいたしました。それでは、執行部の説明をお願いします。

吉村地域活性化室長 一般会計予算常任委員会資料6の23ページをお開きください。地域おこし協力隊募集事業の事業概要について説明します。中山間地域においては、農林業従事者の減少、高齢化の進行により、荒廃した森林や耕作放棄地が増大しており、高齢化等による担い手不足により集落機能の維持が困難となっています。地域の課題解決のため、本市でも、令和元年度から地域おこし協力隊の募集を行い、地域住民を主体とした持続可能な中山間地域の活性化を図っております。現在の地域おこし協力隊の周知募集方法としましては、市、県のHP、移住交流推進機構JOINや、イベント参加時などでのチラシの配布を行って募集を行っています。現在の周知方法だけでは事業の認知度は低いため、本市の地域活動に興味をもつていただいても、実際に目にしたことのない地域に、いきなり地域おこし協力隊の活動を行い、定住等を検討するまで考えることは難しいと考えています。認知度を上げ周知方法を強化する方法として、また、地域おこし協力隊として活動する前に、一定期間、地域協力活動を体験し、山陽小野田市についての理解を深め、協力隊の応募検討材料の一つとして活用してもらえればと考え、地域おこし協力隊募集事業を実施するものです。また、地域おこし協力隊の失敗の多くは、地元、隊員、行政の三者のミスマッチによるもので、お互いのイメージとかけ離れていたことによる関係性の悪化が問題となっていることから、特に受入地域とのミスマッチを解決する方法としてもこの事業を

実施したいと考えています。25ページをお開きください。先ほど申しましたが、地域おこし協力隊の失敗の多くは、地元、隊員、行政の三者のミスマッチが原因だと言われていています。地域の取組と人材のミスマッチは、地域づくりができると思ったが、生活支援ばかりだったという苦情など行政との関係づくりによるミスマッチでは、行政のやり方と協力隊のやり方が合わず、対立関係になるという問題。地域との関係づくりによるミスマッチは、地域との関係づくりがうまくいかない、必要とされないという問題や、地域のやり方と協力隊のやり方が合わず、対立関係になるなどの例が挙げられております。このようなミスマッチの解決方法として、地域おこし協力隊制度が国において創設されました。具体的には、住民との交流を含む2泊3日以上地域協力活動の体験プログラムを実施する事業で、取組を実施した経費について、1自治体あたり100万円を上限に特別交付税により財政措置されるものです。令和2年度、川上地区に1名の募集を行う予定にしています。受入地域、受入自治体、地域おこし協力隊希望者をはじめとする地域協力活動に興味のある方の、三者のマッチングを図ることを目的とし、本市においても地域おこし協力隊のおためし事業を実施することを計画しています。事業概要としましては、募集人員は4名、2泊3日の体験プログラムを実施する予定です。体験プログラムの概要としましては、1日目は山陽小野田市全体の観光。山陽小野田市を知ってもらうための観光を考えております。きららガラス未来館の経験や、花の海の体験も含めて実施したいと考えております。2日目は受入地域と住民との交流。今回は川上地区での地域協力活動を体験していただき、その地域の方との交流を行っていただければと考えております。3日目は近隣市町を巡り、山口県全体の魅力にも触れていただければと思っています。以上を基本プログラムと考えていますが、募集者の要望を酌み取り、一人一人に合ったプログラムをそれぞれ希望に応じて作成し、実施したいと考えています。事業を実施することで、受入地域にとっては、受入自治体だけでなく、受入地域の住民も一緒に希望者を受け入れることで、地域側の主体的な動きが醸成される。受入自治体としては、新しい募集形態として、隊員の

なり手の確保につながる。地域協力活動に興味のある方にとっては、事前に受入地域やその住民、地域協力活動の内容を知ることができ、受入地域や受入自治体との意思疎通が早い段階から図られることにより、スムーズに活動を開始することができるなどのメリットが期待できると考えています。24ページをお開きください。主な事業費としましては、隊員募集のための旅費、地域おこし協力隊のおためし事業に係る燃料費、募集のために郵送するチラシの運搬費等、おためし事業に参加する人のための傷害保険、住民との交流を含む2泊3日以上地域協力活動の体験プログラムを実施する委託料、施設利用の入場料（ガラス未来館、花の海）、宿泊施設借上料を計上しております。その他としましては、おためし事業以外での隊員募集のための旅費、チラシ作成、JOINへの参加負担金などが入っております。以上で説明を終わります。御審査のほど、よろしく申し上げます。

河野朋子分科会長 説明が終わりましたので、質疑を受けます。

山田伸幸委員 先日地域おこし協力隊1名が決定したというニュースを見たんですけど、これとは別のことなんですね。

吉村地域活性化室長 川上地区には2名を予定しておりまして、1名を決定しておりましたので残りの1名を来年度募集する予定にしております。

山田伸幸委員 この度、報道等で明らかになった方は、もう地域おこし協力隊ということで、おためしではなく実際にどこかに住み込まれて、地域での活動をし、住居も探しておられるということでしょうか。

吉村地域活性化室長 今、2月1日に委嘱した隊員につきましては、川上地区のほうで活動されております。

山田伸幸委員 その方のお仕事は、何か特別なものがあるのでしょうか。

吉村地域活性化室長 地域の農事組合関係のお手伝いと地域の地域活動、そして、6次産業化の開発等があります。

山田伸幸委員 そういう農業経験のある方なんですかね。いかがですか。

吉村地域活性化室長 農業経験は一切ない方でありました。

奥良秀委員 事業概要の中で、一定期間っていう文言があるんですが、一定期間等はどのくらいの期間なのでしょう。

吉村地域活性化室長 2泊3日です。

奥良秀委員 それで、こちらの方が中山間地域で荒廃した農地をということで、主に農業関係なんですが、事業としては総務省のほうでやられている地域おこし協力隊なんですが、いろんな分野があると思うんですね。今後、これは農業ですけど、ほかの分野にも波及して行うという考えはあるのでしょうか。これがちょっと今部署が違うかもしれませんが、そういう考えられるかどうか、もし分かれば教えてください。

吉村地域活性化室長 私がいますのが、地域活性化室におりまして中山間地域を担当している部署です。今回私どもが実際しているのは、地域住民を主体とした持続可能な中山間地域を作るために行っておりますので、その地域での要望があれば、その事業を実施することになると思います。

奥良秀委員 地域おこし協力隊っていうのが、今全国的にもかなり増えてまして、御存じのとおり平成21年度からできてまして、今、大体平成30年度で5,359名ぐらいの人がいらっしゃるという話なんですが、先ほどから言われているミスマッチがかなり起きているような状況で、是非ともいい人材が来られた場合は、逃さないように是非目を配っていた

だいて、本当にすばらしい人材が来られると思いますので、育てていただきたいと思います。これは要望です。

伊場勇副分科会長 そのミスマッチを少しでもなくすために、やはりその募集の方法なり選定基準というのをしっかり充実させなきゃいけないと思うんですけども、今1名の方がいらっしゃるということで、その中で新たにこういう事業をして、しっかり選定していく。4名募集をするということなんですけれども、その選定する方法なり内容なり、今、いろいろ経験されていると思うので、これからどういうふうに募集をするのか、選定するのか教えてください。

吉村地域活性化室長 おためし事業とは別にこの地域おこし協力隊の募集に当たっては、地域の方の御意見を十分反映した募集を実施していきたいと思います。今回初めて募集をしまして、やっぱりいろいろ欠けている、抜けていたこともありますし、いろいろ勉強することもありましたので、その辺を十分考えて募集を実施していきたいと考えております。

伊場勇副分科会長 おためし事業の募集の選定方法はどうか。

吉村地域活性化室長 おためし事業は募集があるところにお声を掛けていただければ、おためし事業を実施するようになると思います。募集4名っていうのが、4名ぐらい来られるかなと思ってますんで、4名分のための事業費を組んでいるもので、もしかしたら、おためしに来たいと思われる方がいらっしゃらなければ、件数はゼロになると思います。

伊場勇副分科会長 なので、募集が来れば、おためし事業の応募者で、例えば東京から来る人に対して行うということですよ。ただ、それにもやっぱり、「行きたいんですけど」、「はい、どうぞ」、ではいけないと思うんで、しっかりお金を使う事業ですから、その選定はどうするんですか、書類選考から面接、書類選考を何回するのかとか、そういったところは

どうなんですか。

吉村地域活性化室長　今は、御要望があればお話を聞いておためし事業に来ていただくと思います。選考とかはせずに、地域おこし協力隊は選考しますけれども、おためし事業は山陽小野田市を知っていただいて、地域おこし協力隊として来ていただきたいという方ですので、もっと知っていただくために来ていただくので、選考とかではなくて御要望があればお話に乗って来ていただくということになります。

笹木慶之委員　ちょっとお願いしておきますが、中山間地域の定義というのは、旧山陽町全てなんですよね。だから、この事業については、広くやっぱりきちっと説明されないと、やっぱりそういう希望が出てこないと思うんです。だから、農業地域だけに限らず、漁業もあろうし、それから一部の昔の商店街もあろうしね。だから、その辺りをしっかり取りこぼさないように選定して、おためし事業をしてもらいたいということを申し上げておきますが、よろしいですね。

河野朋子分科会長　要望ということで。はい、ほかに。

奥良秀委員　来られた方の大体の統計でいえば6割ぐらいが定住されて、その中の約3割の人が自立というか、起業されてるっていうデータがある中で、地元の要望だけではなくて、来られた方の要望もよく聞き入れられて、先ほど言ったミスマッチ、やはり何かしらの夢があって来られると思いますので、その辺はよく酌み取って行っていただきたいと思います。

山田伸幸委員　地域活性化室の今までの活動として、実際にその地域おこし協力隊の人たちと触れ合って、どういった活動しておられるかと見てもらえましたでしょうか。

吉村地域活性化室長　山陽小野田市に来られた地域おこし協力隊の方は2月1

日に委嘱しまして、今、1か月がたちました。まだ地元の方々との交流っていか作業自体は、実際は農業の支援ですので、今から忙しくなるのかなと思ってますけども、皆さんと交流して、地域の活性、地域が活力あるというか、ちょっと動き出したかなと感じているところです。

山田伸幸委員 地域おこし協力隊を私はいろんなところで見てまいりまして、御本人さんたちの話を伺ってきたんですが、やはり一番鍵を握っているのは、コーディネーターの活動なんですよ。今、実際、それをしておられる方がいらっしゃるんですか。

吉村地域活性化室長 県にまず地域おこし協力隊のコーディネーターの方がいらっしゃると思います。そしてまた今回入られた地域おこし協力隊の方は、川上営農組合を母体として動かれます。全体的に川上地区の活性化が目的なんですけれども、母体としては、川上営農組合、川上営農組合の方が責任を持って、その方にいろいろと教えられているというのが現状です。

河野朋子分科会長 よろしいですか。質疑は。今回、おためし事業ということなので、その辺りですけどね。

山田伸幸委員 何か市のほうのスタンスがよく見えないんですよ。そういったこれが成功例なれば次から次というふうになっていくと思うんですけど。やはり、そういったところでもっといろんな情報収集だとか、いろんなやり方を把握した上でこれに当たられるべきではないかなと思ってます。先ほどからミスマッチというけど、本当にミスマッチだったんかちゅうこともあるんですよ。よく途中で帰られるというのもあるようです。その一つはやっぱり近隣とのトラブルが一番多いんですよ。近隣の人たちはごく普通にしゃべっていても、都会から来られた方にとってはとても受け入れ難いようなこともあるんですよ。だから地域にとって普通のことが、そういった人々にとってはもう次元の世界のことだということもありますので、相当息の長い支援をしていかなくちゃいけな

いので、県にお任せするというのが私はいかがなものかなと思いますが、市のほうで是非そういうコーディネーターを務めるような方が必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

吉村地域活性化室長 地域おこし協力隊の方がどうしても別の場所っていうか、新たな場所に来られるということで寂しい気持ちになられるっていうのは、いろいろちょっと勉強しまして感じているところですので、今1週間に1回、面接するようにしています、短いですが。そして、隊員がどのように思っているのか、どうしたらいいのかっていうのを、そこでお話を聞いて、隊員が望むことをかなえられるのであれば、私どものほうも協力していくというふうにしておりますので、今のところはちょっとそのように協力しているというのが現状です。

河野朋子分科会長 はい、ほかに。この事業についてはよろしいですか。該当ページがありますが、よろしいですか。山陽総合事務所のところのここはいいですか。110、111ページですかね。中にちょっとずつ入っていますけど。

伊場勇副分科会長 75ページの地域おこし協力隊募集ブース設置負担金を、ちょっと少し詳しく説明してください。

吉村地域活性化室長 地域おこし協力隊の募集が年に1回、ちょっとお祭りみたいな感じであります。そのブースは東京のほうでやります。そのブースに設置するのに10万円掛かるということですので、10万円出して、そこで募集を掛けたいと考えております。

山田伸幸委員 ということは、これ今までそういうのを出したことないということなんですか。

吉村地域活性化室長 今年度は出しておりません。

笹木慶之委員 111ページの13の委託料の調査設計委託料は何でしょうか。

吉村地域活性化室長 保健センターの空調の設計費です。

山田伸幸委員 旅券が実際にどの程度、これまで大体年間発給されてきたのですか。

吉村地域活性化室長 山陽小野田市パスポートセンターにおきましては、旅券の発給、申請ともに1,000件程度あります。

山田伸幸委員 かなり多くてびっくりしたんですけど、それは何名の職員で今やっておられるんですか。

吉村地域活性化室長 地域活性化室では5名おりますので、基本、主に対応するのがパスポート専用の職員がおりますので、それとあと4人が補助しながら対応しております。

河野朋子分科会長 もういいですか、そこまでは。それで全て山陽総合事務所関係は終わりましたね。ほかにもそれ以外はないですか。③の中の総合事務所関係だけ審査が終わっておりますので、明日は、③番のそれ以外の部分を、審査事業番号1番から行きます。では、本日は、これで終わりたいと思います。お疲れ様でした。

午後5時29分 散会

令和2年（2020年）3月11日

一般会計予算決算常任委員会総務文教分科会長 河野朋子